

ThinkVantage Access Connections 4.1

ユーザース・ガイド

ThinkVantage Access Connections 4.1

ユーザース・ガイド

注: 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、89 ページの『付録 D. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号(¥)がバックスラッシュ(\)と表示されたり、バックスラッシュ(\)が円記号(¥)と表示されたりする場合があります。

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright Lenovo 2006.

Portions © Copyright International Business Machines Corporation 2006.

All rights reserved.

目次

図	v
本書について	vii
本書の構成	vii
本書で使用される注記	vii
本書で使用される構文規則	viii
ThinkVantage Access Connections Web サイト	viii
第 1 章 Access Connections について	1
システム要件	1
サポートされるオペレーティング・システム	1
Access Connections v.4.1 の新機能	1
Access Connections の更新	2
第 2 章 ロケーション・プロファイルの使用	3
ロケーション・プロファイルの作成	3
追加設定	27
ワイヤレス・セキュリティー設定	30
VPN 設定の編集	43
ロケーション・プロファイルの管理	45
ショートカット・アイコンの使用	46
ネットワークへの接続	47
ワイヤレス・ネットワークへの接続	48
ロケーション・プロファイルの自動切り替え	50
接続状況の表示	51
診断	57
第 3 章 構成オプション	59
ネットワークに関する共通設定	59
通知に関する共通設定	62
ユーザー設定	63
ツールバー・オプション	64
ピアツーピア・オプション	65
第 4 章 無線 WAN 接続の使用	67
無線 WAN プロファイルの作成および適用	68
Short Message Service (SMS) インターフェースの使用	69
第 5 章 ピアツーピア接続の概要	71
ピアツーピア接続の準備	71
ピアツーピア接続の作成	74
ピアツーピア接続の使用	78
付録 A. よくある質問	81
付録 B. コマンド行インターフェース	85
付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手	87
依頼する前に	87
資料の使用	87

ヘルプおよび情報を WWW から入手する	88
付録 D. 特記事項	89
付録 E. 商標	91
索引	93



1. Access Connections の更新	2
2. 「Access Connections へようこそ」ウィンドウ	3
3. 「詳細情報」ウィンドウ	4
4. Access Connections メインウィンドウのメニュー	4
5. メインメニュー - ロケーション	5
6. プロファイル・ウィザード・ウィンドウ	5
7. プロファイル・ウィザード - プロファイル名の入力	6
8. ロケーション・アイコンのプルダウン・メニュー	7
9. ネットワーク接続タイプのプルダウン・メニュー	8
10. 新規プロファイルの作成 - 有効な有線又は無線 LAN を自動選択	9
11. 新規プロファイルの作成 - 有線 LAN (イーサネット)	10
12. 新規プロファイルの作成 - 無線 LAN (802.11)	11
13. 新規プロファイルの作成 - 有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム)	12
14. 新規プロファイルの作成 - ダイアルアップ (モデムまたは携帯電話)	13
15. 新規プロファイルの作成 - 無線 WAN	14
16. 「認証のプロパティ」ウィンドウ	15
17. 「ワイヤレス ネットワーク構成」ウィンドウ	16
18. ワイヤレス セキュリティの種類	17
19. 「拡張ワイヤレス設定」ウィンドウ	19
20. 電話帳設定ウィンドウ	21
21. 「DSL アカウント詳細の入力」ウィンドウ	22
22. 「ダイヤラ プログラムの検出」ウィンドウ	23
23. 「カスタム・ダイヤラを選択する」ウィンドウ	24
24. 「ダイヤラの手動セットアップ」ウィンドウ	25
25. 「追加設定」ウィンドウ	26
26. 「セキュリティ設定」ウィンドウ	27
27. 「プログラムの追加」ウィンドウ	28
28. TCP/IP 設定	29
29. 「固定 WEP 設定」ウィンドウ	30
30. 「Wi-Fi 設定」ウィンドウ	31
31. 「802.1x 設定」ウィンドウ	32
32. 「802.1x 設定 - Access Connections」ウィンドウ	34
33. 「証明書の選択」ウィンドウ	35
34. 「LEAP 設定」ウィンドウ	39
35. 「EAP-FAST 設定」ウィンドウ	41
36. 「VPN 設定」 - 「会社から提供されたアプリケーションを使用する」ウィンドウ	43
37. 「VPN 設定」 - 「VPN 接続を手動でセットアップする」ウィンドウ	44
38. 「ロケーション・プロファイルの管理」ウィンドウ	45
39. 「ロケーション プロファイルの管理」ウィンドウ - ショートカットの作成	46
40. オンスクリーン・ウィンドウ	47
41. 「ワイヤレス ネットワークの検索」ウィンドウ	48
42. 「ワイヤレス ネットワークの検索」ウィンドウ - 詳細表示	49
43. 「ロケーション プロファイルの自動切り替え」ウィンドウ	50
44. 診断ツール	57
45. 「共通設定」 - 「ネットワーク」タブ	60
46. 「共通設定」 - 「通知」タブ	62
47. ユーザー設定	63
48. ツールバーのカスタマイズ	64

49.	「ピアツーピア・オプション」ウィンドウ	65
50.	活動化プロセス・ウィザード	67
51.	Windows セキュリティー	71
52.	「Windows ファイアウォール」ウィンドウ	72
53.	「プログラムの追加」ウィンドウ	72
54.	メイン AC ウィンドウ — 「ロケーション・プロファイル」タブ	74
55.	「ピアツーピア・コミュニティ」タブ — 「参加」ボタン	75
56.	「NetMeeting」ウィンドウ	76
57.	「ピアツーピア・コミュニティ」タブ — 「退席」ボタン	77

本書について

本書には、ThinkVantage® Access Connections v.4.1 の使用に関する情報が記載されています。

本書の構成

1 ページの『第 1 章 Access Connections について』では、Access Connections アプリケーションおよびその機能の概要を示します。

3 ページの『第 2 章 ロケーション・プロファイルの使用』では、プロファイルの作成およびネットワーク接続の作成について説明します。

59 ページの『第 3 章 構成オプション』では、さまざまなオプションの構成について説明します。

67 ページの『第 4 章 無線 WAN 接続の使用』では、無線 WAN 接続の使用について説明します。

71 ページの『第 5 章 ピアツーピア接続の概要』では、ピアツーピア接続の使用について説明します。

81 ページの『付録 A. よくある質問』には、Access Connections についてのよくある質問への回答が記載されています。

85 ページの『付録 B. コマンド行インターフェース』には、コマンド行から入力できるコマンドのリストが記載されています。

87 ページの『付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手』では、ThinkVantage サポート Web サイトにアクセスしてヘルプおよび技術支援を得る方法を説明します。

89 ページの『付録 D. 特記事項』には、製品の特記事項および商標が記載されています。

本書で使用される注記

本書では、主要な情報を強調表示する目的で以下の注記が使用されています。

- **注:** これらの注記には、重要なヒント、ガイド、またはアドバイスが記載されています。
- **要確認:** これらの注記には、不便や困難を避ける上で役立つ情報またはアドバイスが記載されています。
- **重要:** これらの注記は、プログラム、デバイス、またはデータを損傷する可能性があることを警告しています。「重要」という注記は、損傷が発生する可能性がある説明または状況の直前に記載されています。

本書で使用される構文規則

本書の構文は、以下の規則に従っています。

- コマンドは小文字で表示されます。
- 変数はイタリック体で表示され、直後にその説明が記載されています。
- オプションのコマンドまたは変数は大括弧で囲まれています。
- ユーザーが複数のパラメーターのうち 1 つを入力する必要がある場合、パラメーターは縦線で区切られています。
- デフォルト値には下線が付いています。
- 反復可能パラメーターは中括弧で囲まれています。

ThinkVantage Access Connections Web サイト

以下の Web ページでは、Access Connections および他のシステム管理ツールを理解し、使用して、トラブルシューティングを行うためのリソースを提供しています。

ThinkVantage Access Connections ホーム・ページ

<http://www.ibm.com/jp/pc/think/thinkvantagetech/accessconnections.shtml>

この Web ページにアクセスすると、最新の Access Connections ソフトウェアおよび資料をダウンロードできます。

ThinkVantage テクノロジー Web サイト

<http://www.ibm.com/jp/pc/think/thinkvantagetech/>

この Web ページでは、ThinkVantage Technology に関する情報を参照できます。

Lenovo ノートブック製品 Web サイト

<http://www.ibm.com/jp/pc/thinkpad/>

この Web ページから、Lenovo ノートブック製品 Web サイトにアクセスできます。

第 1 章 Access Connections について

Access Connections は、ロケーション・プロファイルを作成して管理できる、Lenovo® ノートブック製品用の接続支援プログラムです。各ロケーション・プロファイルは、ネットワーク・インフラストラクチャーに自宅または職場などの特定のロケーションから接続するために必要なネットワークおよびインターネットの構成設定をすべて保管します。また、ロケーション・プロファイルを使用して、さまざまなデフォルト・プリンター、Internet Explorer と Firefox ブラウザーのデフォルトのホーム・ページ、特定のロケーションのセキュリティー設定を指定して、異なるロケーションで異なるアプリケーションを自動的に開始することができます。

ロケーション・プロファイルを切り替えることにより、コンピューターを移動するたびに、手で設定を再構成したり、コンピューターを再起動することなく、素早く簡単にネットワークに接続することができます。また、Access Connections により、Bluetooth デバイスの表示と接続、および Bluetooth セキュリティー・オプションの設定を行うことができます。ロケーション・プロファイルを選択することにより、ネットワークおよびインターネット設定を素早く切り替えることができます。

ネットワーク接続は、モデム、イーサネット、ブロードバンド (DSL)、ケーブル・モデム、または ISDN、衛星接続、無線 LAN、または無線 WAN を使用して確立できます。仮想プライベート・ネットワーク (VPN) 接続もサポートされます。

システム要件

Access Connections をインストールする前に、インストールする場所および作成するネットワーク・プロファイルについて検討する必要があります。以下に、Access Connections をインストールする前に検討すべきシステムの考慮事項および制限事項をリストします。

サポートされるオペレーティング・システム

サポートされるオペレーティング・システム

- Windows 2000
- Windows XP

Access Connections は言語に依存していないため、任意の言語のオペレーティング・システムで使用できます。

Access Connections v.4.1 の新機能

Access Connections v.4.1 には、次の新機能および機能改良が含まれています。

- ピアツーピア接続
- Verizon Wireless WAN サービス用の Sierra Wireless 1xEV-DO ネットワーク・アダプターのサポート
- Vodafone HSDPA/WCDMA Communication Manager ソフトウェアのサポート

注: WAN 接続サービスでは、Access Connections は Vodafone により開発された WAN 通信ソフトウェアとの統合を提供します。WAN プロファイルで、このアプリケーション・ソフトウェアを起動することを指定できます。

- Firefox インターネット・ブラウザのサポート
- サポートされる新しい Mini-PCI カード
 - Intel Pro/Wireless 3945 ABG 無線 LAN アダプター
 - Broadcom 4318/4311 無線 LAN アダプター

Broadcomm 4318/4311 無線 LAN アダプターを使用する場合の Access Connections の使用に関する注意:

1. Windows XP では、提供されるサポートが限定されています。アクセスするには、Windows Zero 構成サービスを使用可能にしてください。
 2. 「ワイヤレス ネットワークの検索」機能および「ピアツーピア・コミュニティ」機能はサポートされません。
 3. ワイヤレス接続を構成するには、Windows XP のワイヤレス・ネットワーク・セットアップ・メニューに進んでください。
 4. Access Connections v.4.1 は、ワイヤレス制御および信号状況表示のみをサポートします。
- 更新された使いやすいグラフィック・ユーザー・インターフェース

Access Connections の更新

Access Connections は、ご使用のものより新しいバージョンがサポート Web サイトにあるかどうかを検査できます。更新済みバージョンが利用可能な場合、Access Connections は自動的にダウンロードおよびインストールを実行します。この機能を使用可能にするには、メインツールバーで「ヘルプ」を選択します。ポップアップ・メニューで「更新の確認」をクリックします。



図1. Access Connections の更新

第 2 章 ロケーション・プロファイルの使用

ThinkVantage Access Connections は、ロケーション・プロファイルを使用して複数のロケーションにあるネットワーク接続を管理するソフトウェア・ユーティリティです。ロケーション・プロファイルは、ブラウザのホーム・ページ、プロキシ構成、ファイアウォール状況、ファイルおよびプリンターの共用、およびデフォルト・プリンターなどのロケーション固有の設定に加えて、希望のネットワークに接続するために必要なネットワーク構成を保管します。コンピューターの移動時にロケーション・プロファイルを切り替えることにより、ユーザーが手動でネットワーク設定を再構成することなく、Access Connections が素早く簡単にネットワークに接続します。

ロケーション・プロファイルの作成

ロケーション・プロファイルは、特定のネットワークへの接続を確立するために必要なすべての設定、およびロケーション固有のその他の設定 (デフォルト・プリンターおよびブラウザ設定など) を定義します。Access Connections には、異なるタイプのネットワーク用にロケーション・プロファイルを作成する上で役立つプロファイル・ウィザードがあります。

新規ロケーション・プロファイルを作成するには、次のようにします。

1. Access Connections を開始します。初めて Access Connections にアクセスする場合は、「Access Connections へようこそ」ウィンドウが表示されます。



図 2. 「Access Connections へようこそ」ウィンドウ

著作権文の詳細を表示するには、「詳細情報」を押します。

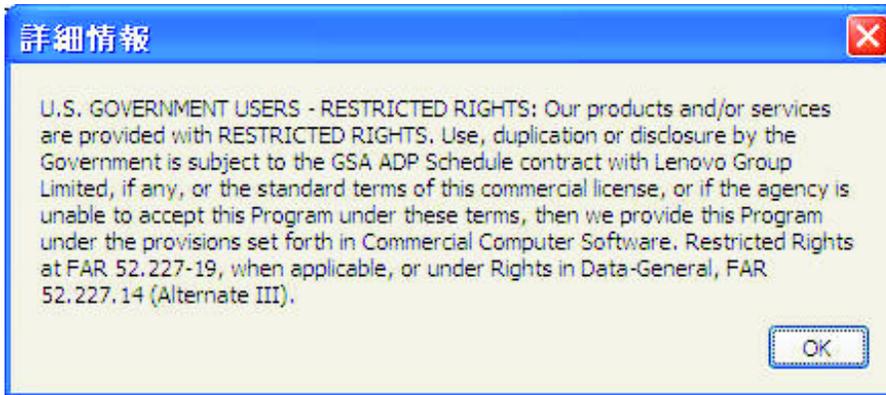


図3. 「詳細情報」ウィンドウ

2. 「OK」を押します。メインウィンドウが開きます。

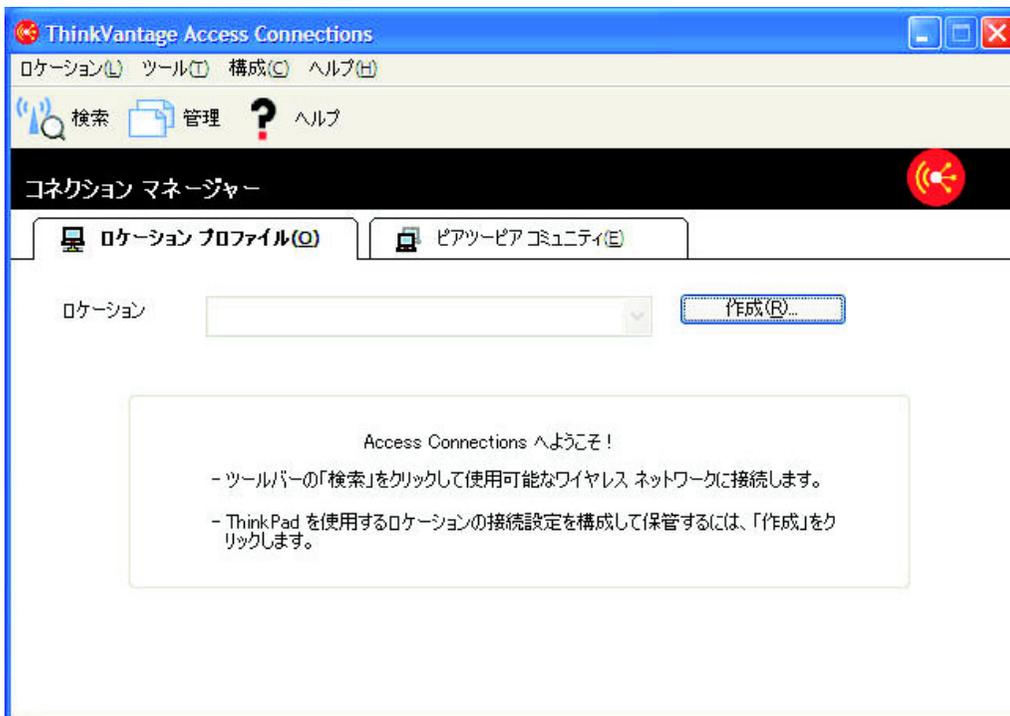


図4. Access Connections メインウィンドウのメニュー

3. ツールバーで「ロケーション」をクリックします。

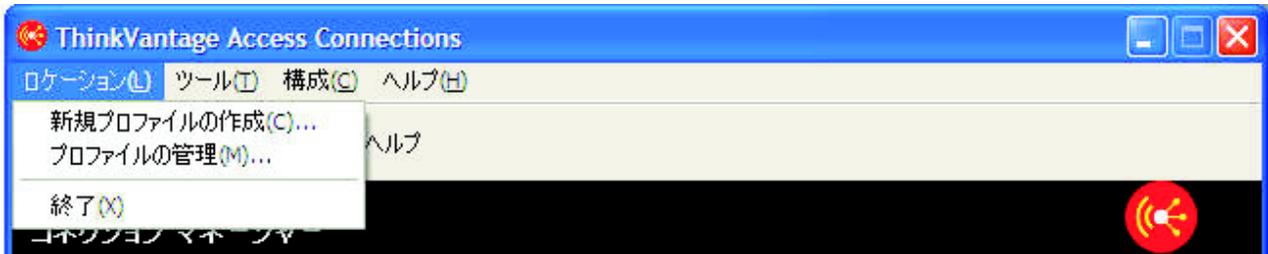


図5. メインメニュー - ロケーション

ポップアップで「新規プロファイルの作成」をクリックします。プロファイル・ウィザードが開始します。



図6. プロファイル・ウィザード・ウィンドウ

4. プロファイル名を入力します。ネットワークの物理的なロケーション、またはその他の簡単に認識できる名前を入力できます。

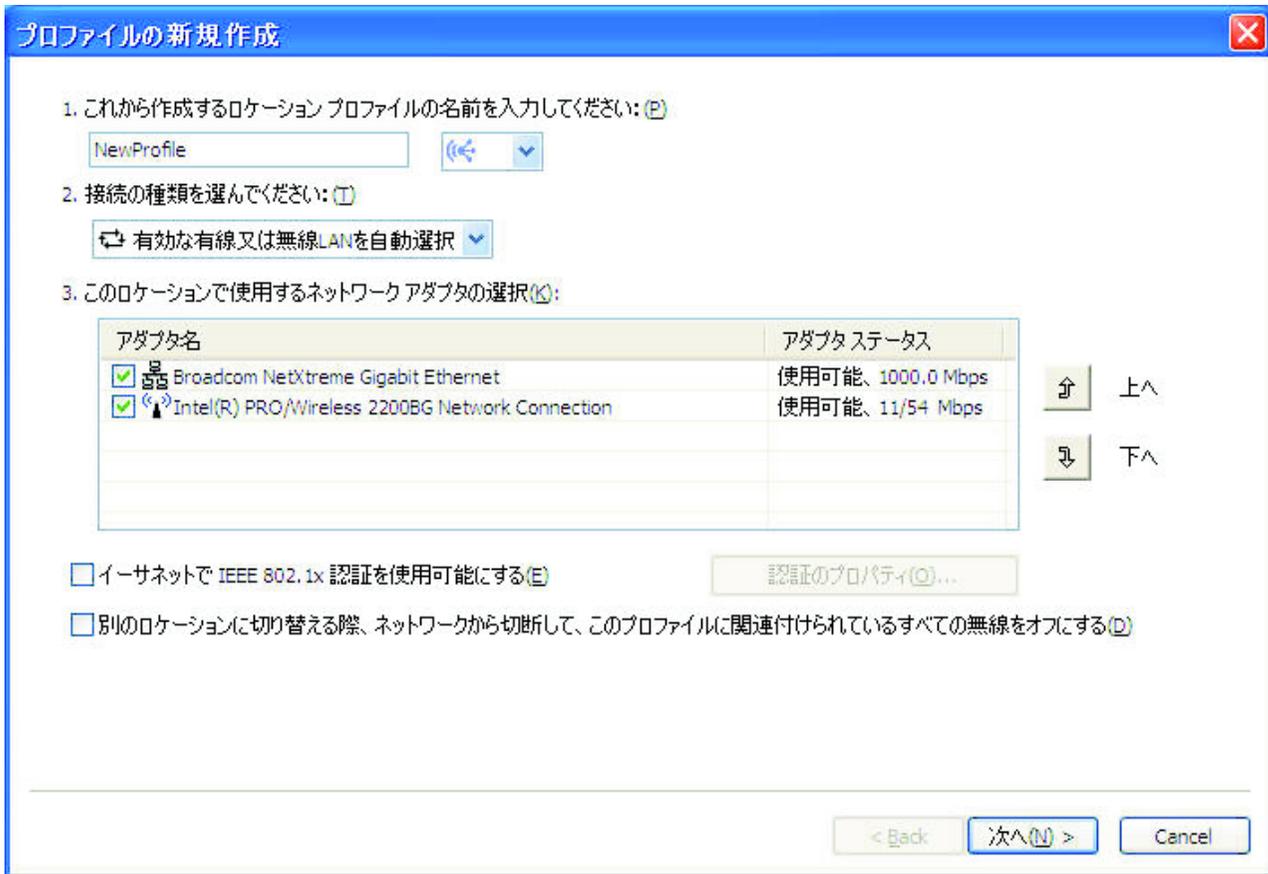


図7. プロファイル・ウィザード — プロファイル名の入力

また、作成したプロファイルに対して、Access Connections が提供するロケーション・アイコン (自宅、オフィス、空港、ホット・スポット、ホテル、電車、または会議室) から 1 つを選択することもできます。

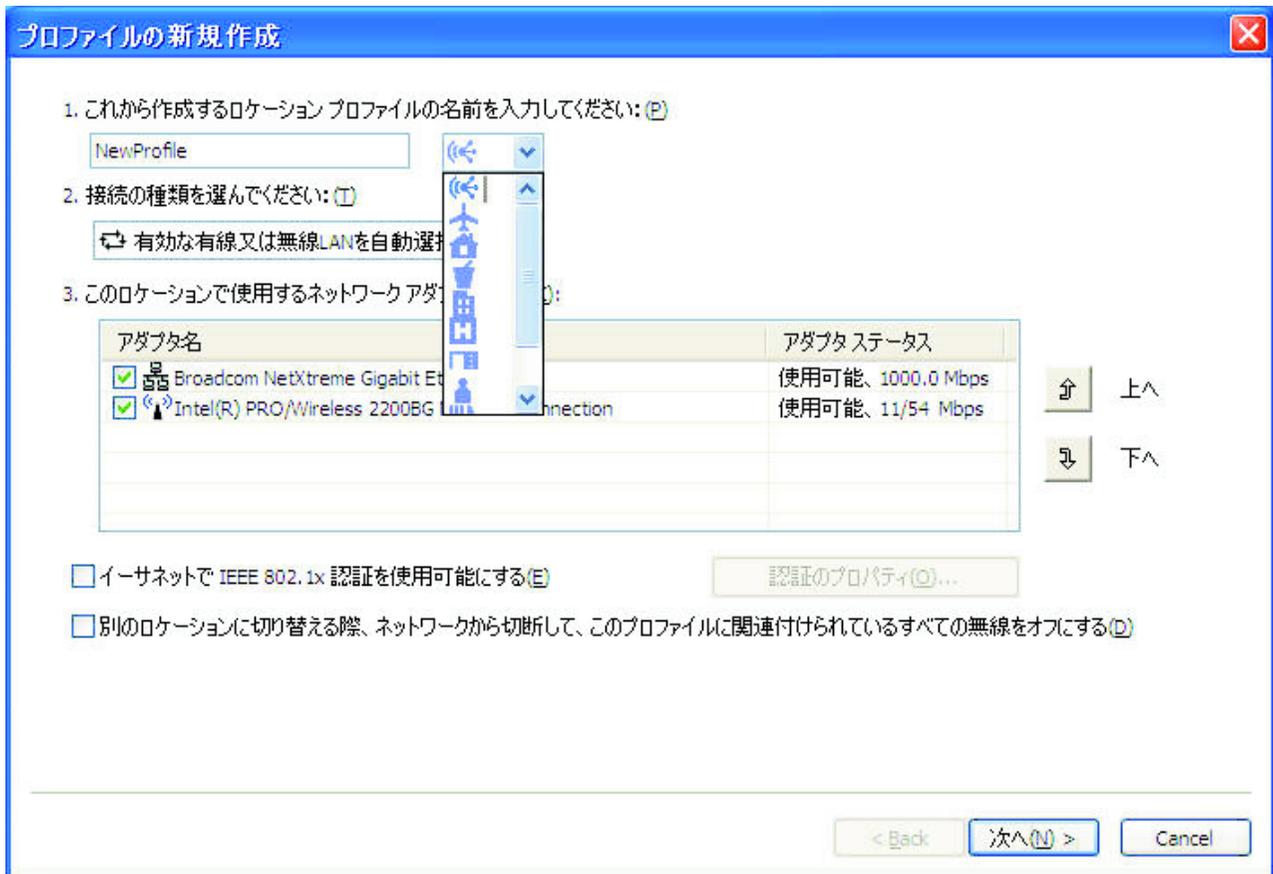


図 8. ロケーション・アイコンのプルダウン・メニュー

5. ネットワーク接続タイプを選択します。次の画面にリストされている任意のタイプを選択できます。

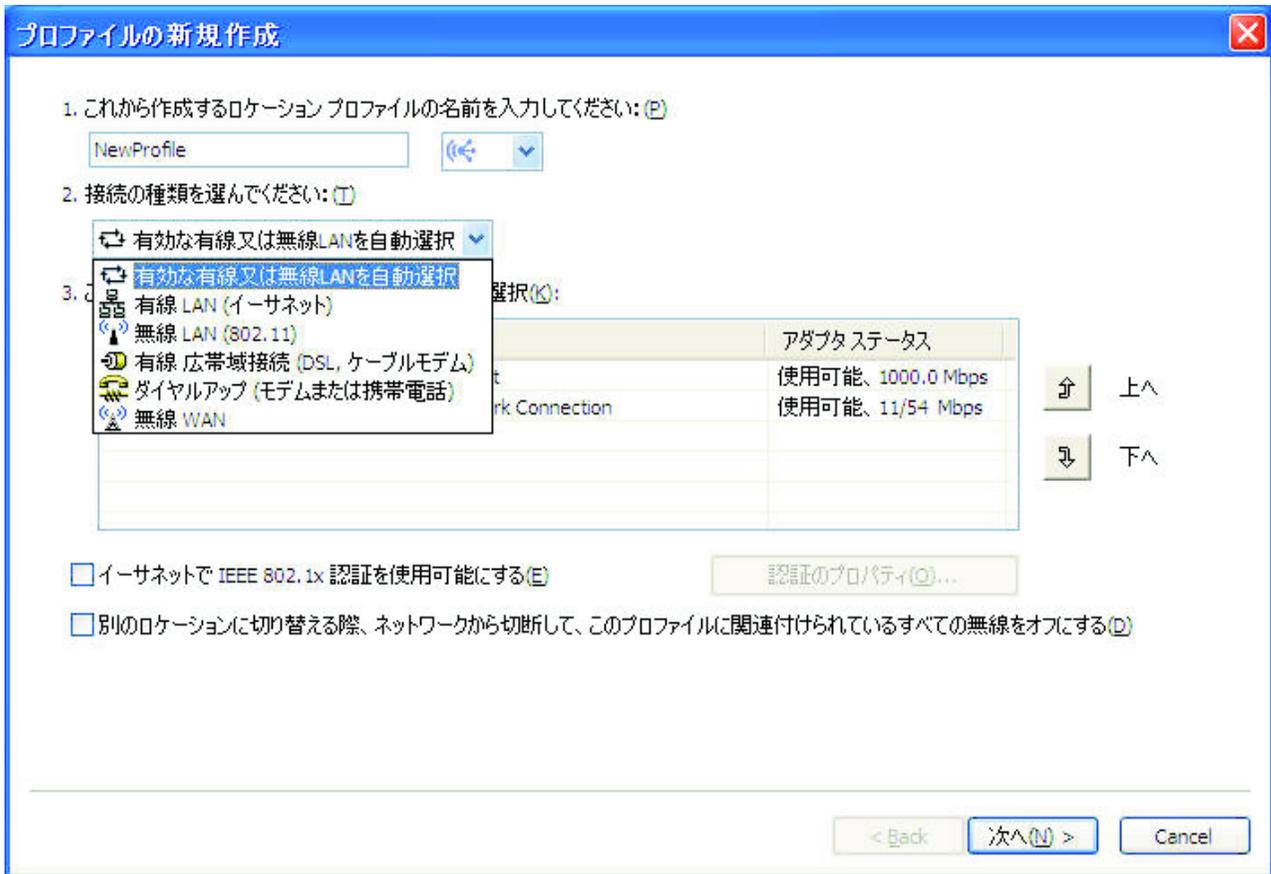


図9. ネットワーク接続タイプのプルダウン・メニュー

有効な有線又は無線 LAN を自動選択

同じロケーションで有線イーサネット・ネットワークまたは無線 802.11 ネットワークのいずれかを自動的に選択するプロファイルを作成する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。この機能は、同じビル内で在席中の有線接続から離席時の無線 LAN 接続に切り替えるなど、ロケーション内で頻繁に移動する場合に便利です。Access Connections は、自動的にご使用のコンピューターでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。使用するすべてのアダプターを選択します。このロケーションでネットワークにアクセスできるネットワーク・アダプターが複数ある場合、Access Connections は最初にリスト内で最高のアダプターを使用して接続を試行します。接続の優先順位を変更するには、テーブルからアダプターを選択して、「上へ」または「下へ」をクリックします。

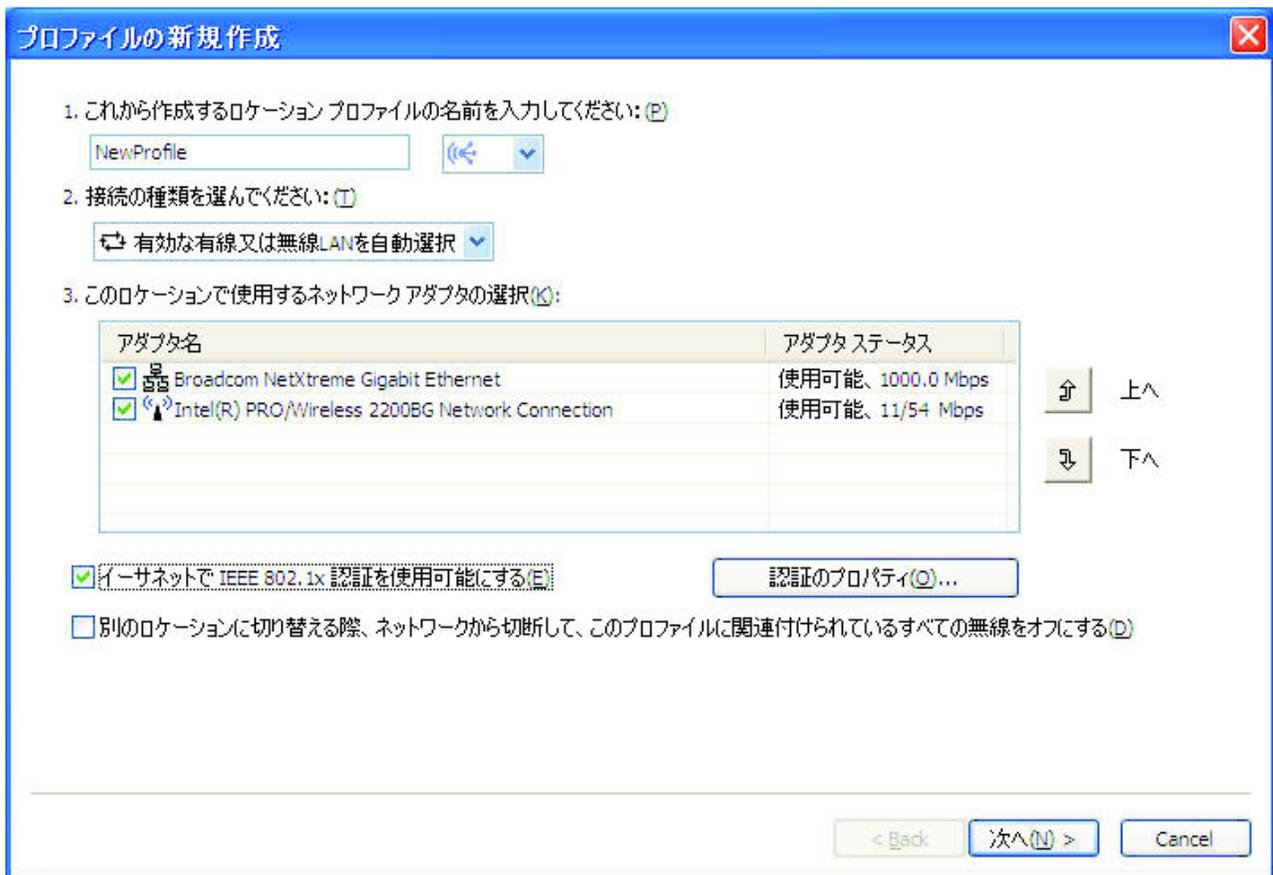


図 10. 新規プロファイルの作成 - 有効な有線又は無線 LAN を自動選択

有線 LAN (イーサネット)

有線 LAN (イーサネット) のみに接続するためにプロファイルを使用する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。Access Connections は、自動的にご使用のコンピューターでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。

The screenshot shows a dialog box titled "プロファイルの新規作成" (New Profile Creation). It contains three main steps:

1. これから作成するロケーション プロファイルの名前を入力してください: (P)
A text input field labeled "Profile" with a back arrow and a dropdown arrow to its right.
2. 接続の種類を選んでください: (T)
A dropdown menu with "有線 LAN (イーサネット)" (Wired LAN (Ethernet)) selected.
3. このロケーションで使用するネットワーク アダプタの選択 (K):
A table with two columns: "アダプタ名" (Adapter Name) and "アダプタ ステータス" (Adapter Status).

アダプタ名	アダプタ ステータス
Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	使用可能、1000.0 Mbps

Below the table, there are two checkboxes:

- イーサネットで IEEE 802.1x 認証を使用可能にする (E) (Enable IEEE 802.1x authentication on Ethernet)
- 別のロケーションに切り替える際、ネットワークから切断する (D) (Disconnect from network when switching to another location)

At the bottom right, there are three buttons: "< Back", "次へ (N) >" (Next), and "Cancel". A button labeled "認証のプロパティ (O) ..." (Authentication Properties...) is also visible next to the first checkbox.

図 11. 新規プロファイルの作成 — 有線 LAN (イーサネット)

無線 LAN (802.11)

802.11 a、b、または g の無線 LAN のみに接続するためにプロファイルを使用する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。Access Connections は、自動的にご使用のコンピューターでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。認証および暗号化の設定を構成できます。

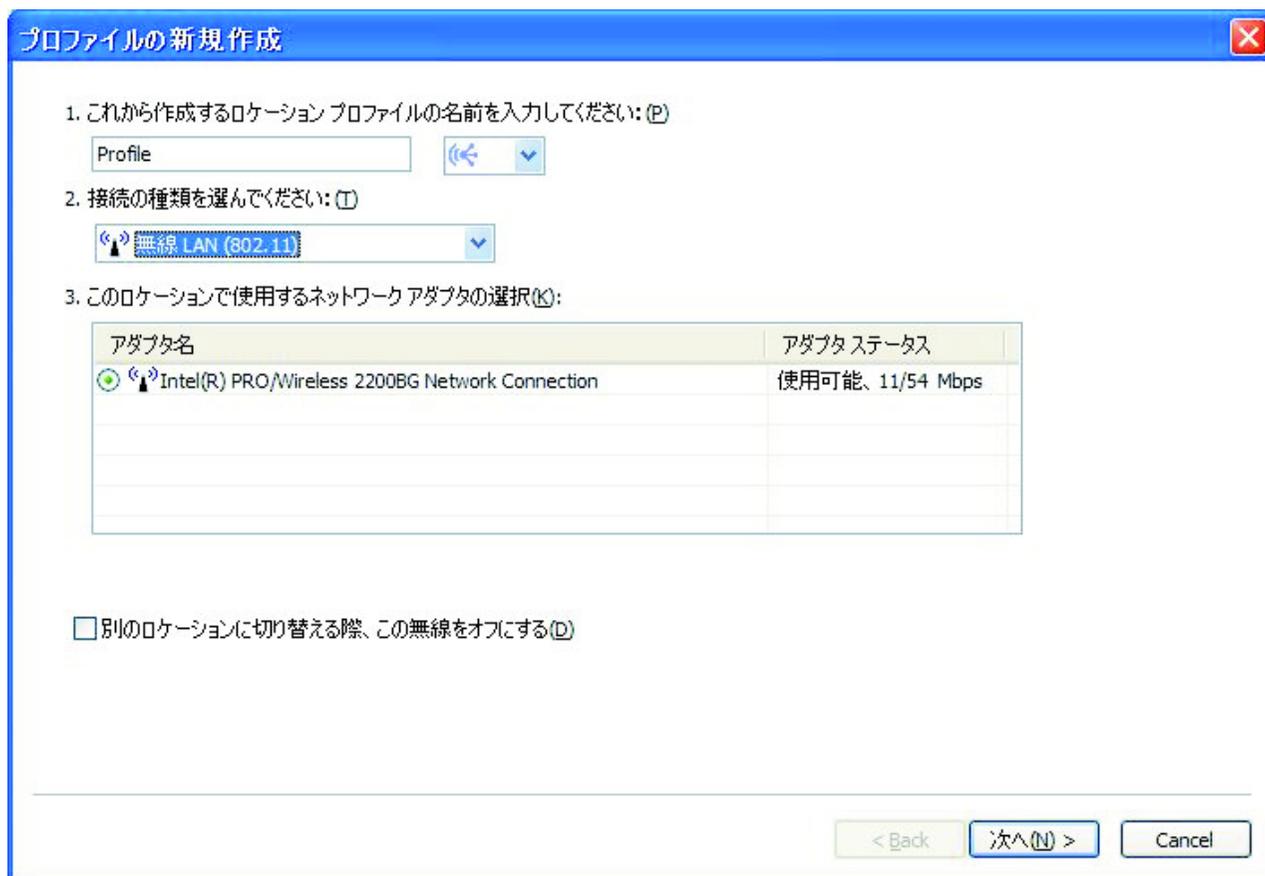


図 12. 新規プロファイルの作成 — 無線 LAN (802.11)

有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム)

有線ブロードバンドのみに接続するためにプロファイルを使用する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。ブロードバンド接続は、DSL、ケーブル・モデム、および ISDN です。通常、ご使用のコンピュータはイーサネット・アダプターを介してブロードバンド・ネットワークに接続します。Access Connections は、自動的にご使用のコンピュータでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。使用するアダプターを 1 つ選択します。ご使用のブロードバンド接続が DSL である場合は、「DSL 設定を構成する」も選択する必要があります。

1. これから作成するロケーション プロファイルの名前を入力してください: (P)

Profile

2. 接続の種類を選んでください: (T)

有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム) ▼

3. このロケーションで使用するネットワーク アダプタの選択 (K):

アダプタ名	アダプタステータス
<input checked="" type="radio"/> <input type="button" value="🔍"/> Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	使用可能、1000.0 Mbps

DSL 設定を構成する (C)

< Back 次へ(N) > Cancel

図 13. 新規プロファイルの作成 — 有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム)

ダイヤルアップ (モデムまたは携帯電話)

ダイヤルアップのみに接続するためにプロファイルを使用する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。ダイヤルアップ接続の例として、電話回線に接続された標準モデム、および携帯電話に無線で接続された Bluetooth モデムが挙げられます。Access Connections は、自動的にご使用のコンピューターでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。

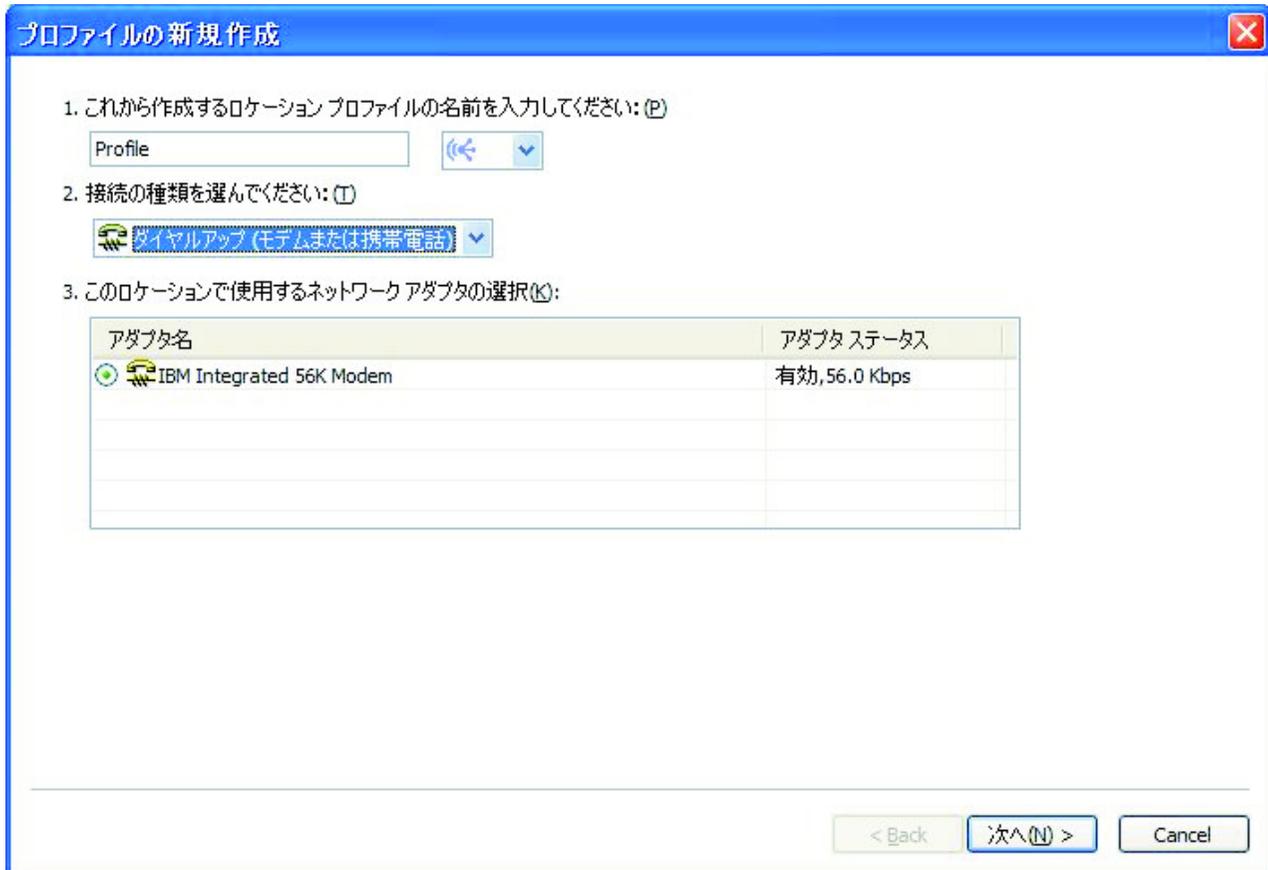


図 14. 新規プロファイルの作成 — ダイヤルアップ (モデムまたは携帯電話)

無線 WAN

無線 WAN (広域ネットワーク) のみに接続するためにプロファイルを使用する場合は、このネットワーク接続タイプを選択します。無線 WAN 接続では、正常に接続するためにサービス加入が必要です。Access Connections は、自動的にご使用のコンピューターでこのネットワーク接続タイプがサポートされるアダプターを判別し、テーブルに表示します。使用するアダプターを 1 つ選択します。

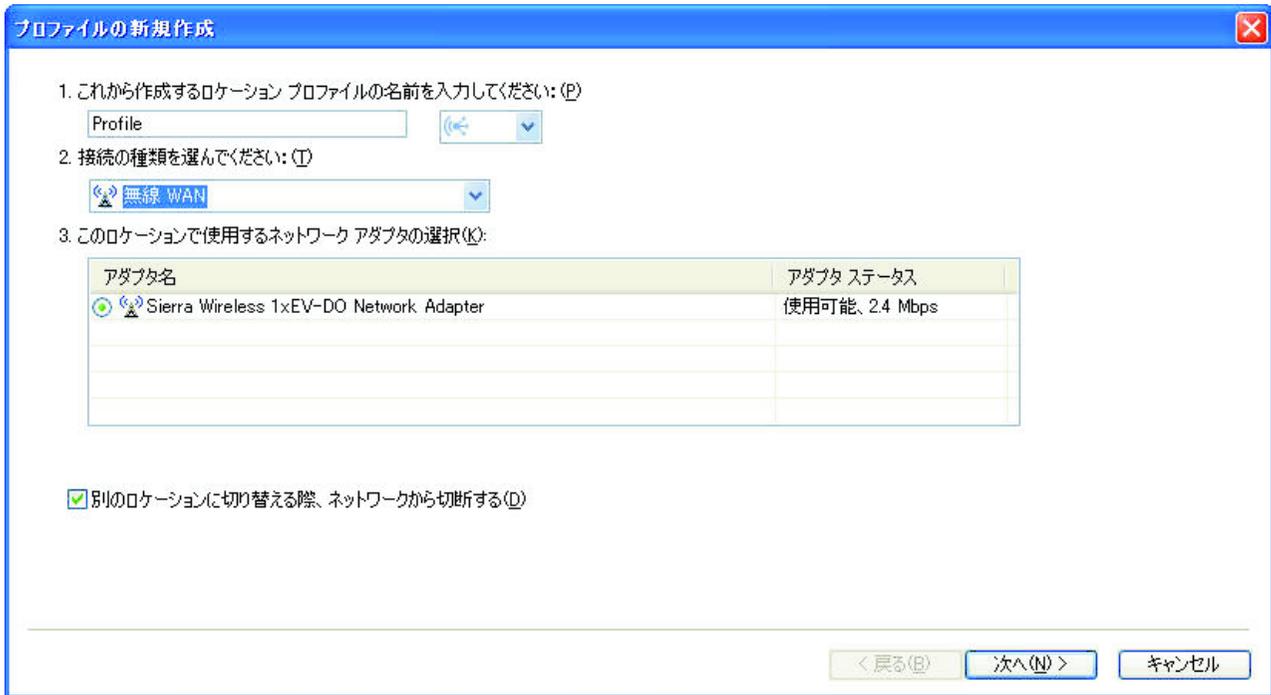


図 15. 新規プロファイルの作成 — 無線 WAN

6. ステップ 5 (8 ページ) で「有効な有線又は無線 LAN を自動選択」を選択した場合、オプションの IEEE 802.1x 認証 (EAP over LAN) を使用可能にすることができます。次のようにします。
 - a. 「イーサネットで IEEE 802.1x 認証を使用可能にする」を選択します。

- b. 「認証のプロパティ」をクリックしてから、ネットワーク管理者から提供された認証設定を入力します。

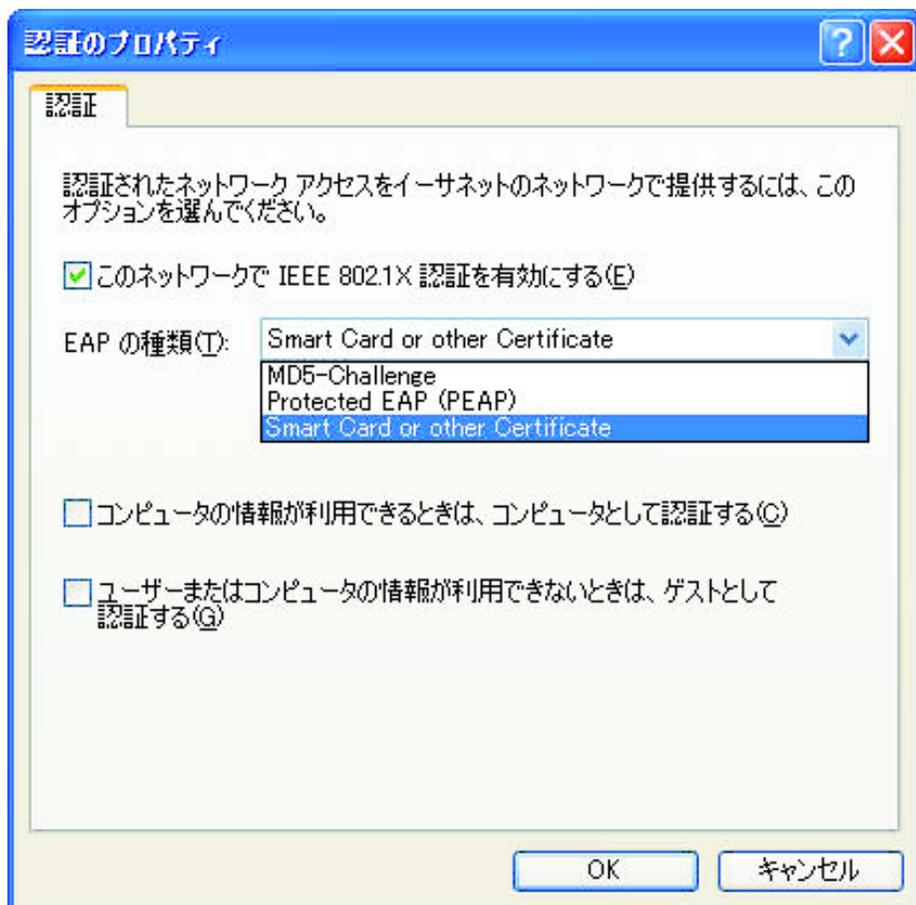


図 16. 「認証のプロパティ」ウィンドウ

- c. 「OK」をクリックします。
7. 複数の同時接続を防止してバッテリーの寿命を節約するには、「別のロケーションに切り替える際、ネットワークから切断して、このプロファイルに関連付けられているすべての無線をオフにする」を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. ワイヤレス・ネットワーク構成を入力してから、「次へ」をクリックします。
10. ステップ 38 (26 ページ) に進みます。
11. ステップ 5 (8 ページ) で「有線 LAN (イーサネット)」を選択した場合、有線ネットワークで IEEE 802.1x 認証 (EAPoL) を使用可能にすることができます。次のようにします。
- a. 「イーサネットで IEEE 802.1x 認証を使用可能にする」を選択します。
- b. 「認証のプロパティ」をクリックしてから、ネットワーク管理者から提供された認証設定を入力します。
- c. 「OK」をクリックします。

12. 別のロケーション・プロファイルに切り替えるときにネットワークから切断する場合、「別のロケーションに切り替える際、ネットワークから切断する」を選択します。
13. 「次へ」をクリックします。
14. ステップ 38 (26 ページ) に進みます。
15. ステップ 5 (8 ページ) で「無線 LAN (802.11)」を選択した場合、複数の同時接続を防止することによりバッテリーの寿命を節約することができます。そのためには、「別のロケーションに切り替える際、この無線をオフにする」を選択します。
16. 「次へ」をクリックします。「ワイヤレス ネットワーク構成」ウィンドウが表示されます。

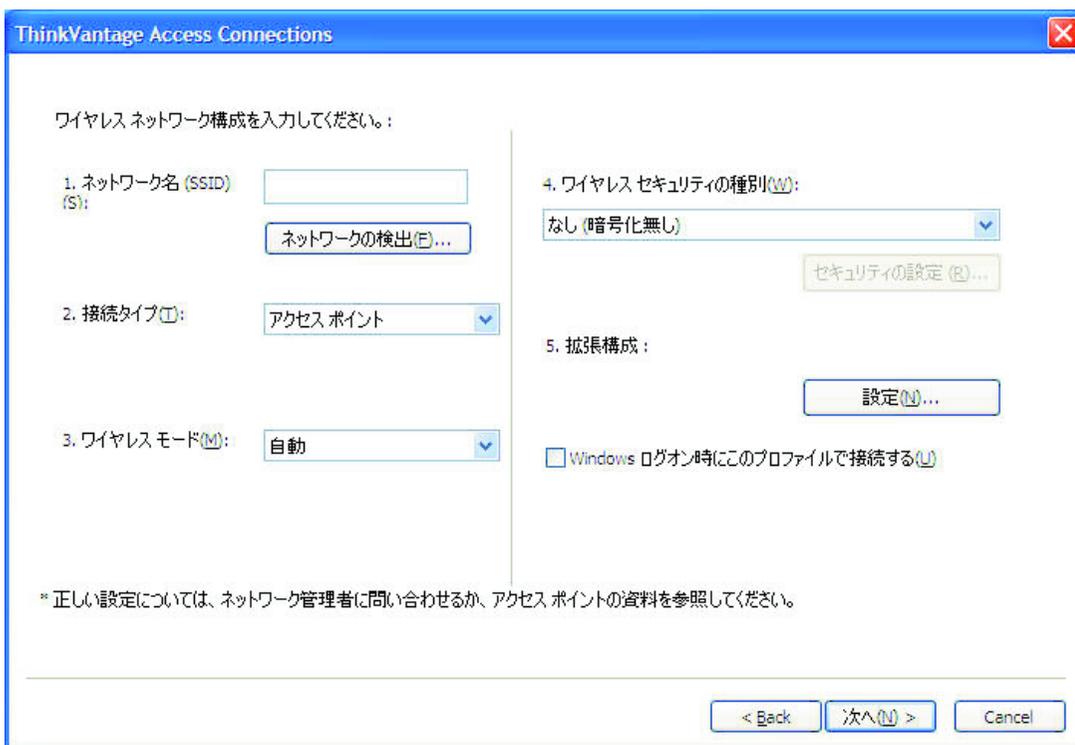


図 17. 「ワイヤレス ネットワーク構成」ウィンドウ

17. 接続先のワイヤレス・ネットワークの名前を入力してください。(ネットワーク名は、SSID とも呼ばれます。) ご使用のコンピューターの範囲内にあるワイヤレス・ネットワークをスキャンし、アクセス・ポイントからブロードキャストされているすべてのネットワーク名を表示するには、「ネットワークの検出」をクリックします。範囲内にあるいずれかの使用可能な非セキュア (オープン) ワイヤレス・ネットワークに接続するには、SSID フィールドをブランクのままにしておきます。ワイヤレス・ネットワークへの接続について詳しくは、48 ページの『ワイヤレス・ネットワークへの接続』を参照してください。
18. 次に、接続タイプを選択します。次の 2 つのタイプから選択できます。

インフラストラクチャー

ご使用のコンピューターがワイヤレス・アクセス・ポイントと通信する場合、この接続タイプを使用します。

Adhoc

最初にワイヤレス・アクセス・ポイントに接続せずに別のコンピューターと直接通信する場合、この接続タイプを使用します。

- 「ワイヤレス モード」として、「自動」、「802.11b」、「802.11g」、または「802.11a」を選択します。取り付けられたアダプターがさまざまな規格と互換性がある場合のみ、この設定は選択可能です。「自動」を選択すると、アダプターは自動的に範囲内のアクセス・ポイントと互換性のあるモードで作動します。範囲内のアクセス・ポイントと同じモードを設定すると、接続の確立は高速になります。
- 図に示されているワイヤレス・セキュリティの種別から 1 つを選択します。

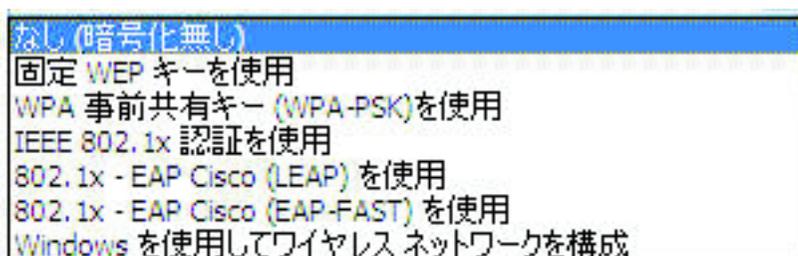


図 18. ワイヤレス セキュリティの種別

なし (暗号化なし)

共用ホット・スポットなどの非セキュア (オープン) ワイヤレス・ネットワークに接続する場合、このオプションを選択します。オプションで、Windows にログオンする前に無線 LAN 接続を確立することができます。そのためには、「**Windows ログオン時にこのプロファイルで接続する**」を選択します。

固定 WEP キーを使用

このタイプのセキュリティをインプリメントするワイヤレス・ネットワークは、事前定義された英数字または 16 進数ストリング (キー) を使用して、ワイヤレス・ネットワークを介して送受信するデータを暗号化および暗号解除します。通常、これらのキーは一度しか入力しません。その後、ワイヤレス・アダプターを挿入するたび、またはコンピューターを起動するたびに、キーが自動的に関連付けられます。オプションで、Windows にログオンする前にこのプロファイルを使用して無線 LAN 接続を確立するには、「**Windows ログオン時にこのプロファイルで接続する**」を選択します。

Wi-Fi プロテクト アクセス - プリ シェアード キー (WPA-PSK) を使用

このタイプのセキュリティをインプリメントするワイヤレス・ネットワークは、ユーザーにプリ・シェアード・キーによる認証を要求します。ワイヤレス・ネットワークを通しての送受信データを、WEP または TKIP データ暗号で暗号化および暗号解除します。オプションで、Windows にログオンする前に無線 LAN 接続を確立するには、「**Windows ログオン時にこのプロファイルで接続する**」を選択します。

IEEE 802.1x 認証を使用

IEEE 802.1x Extensible Authentication Protocol (EAP) セキュリティを

インプリメントするワイヤレス・ネットワークでは、各ユーザーの接続を許可する前に、ユーザー名およびパスワードまたは証明クリデンシャルで識別情報を認証する必要があります。データは、静的または動的な WEP キーを使用して暗号化および暗号化解除されます。動的キーはセッション単位で、認証処理が試行されるたびに生成されます。

802.1x - EAP Cisco (LEAP) を使用

このバージョンの EAP が使用できるのは、Cisco または Cisco 互換ワイヤレス・アダプターをシステムに取り付けている場合のみです。認証と動的暗号鍵を使用して、ワイヤレス・ネットワークを保護します。

802.1x - EAP Cisco (EAP-FAST) を使用

このバージョンの EAP が使用できるのは、Cisco または Cisco 互換ワイヤレス・アダプターをシステムに取り付けている場合のみです。これは、802.1x EAP Cisco (LEAP) の拡張版です。Protected Access Credentials (PAC) およびユーザー・クリデンシャルを使用して、ワイヤレス・ネットワークを保護します。

Windows を使用してワイヤレス ネットワークを構成

Windows Zero 構成サービスでこの無線接続を管理する場合は、このオプションを選択します。この無線接続のセキュリティを構成するための設定は、Windows により管理され、Access Connections によってエクスポートすることはできません。

各ワイヤレス・セキュリティの種別について詳しくは、30 ページの『ワイヤレス・セキュリティ設定』を参照してください。

21. 「プロパティ」をクリックしてから、選択したセキュリティの種別の追加設定を入力します。これらの設定内容は、通常、ネットワーク管理者から提供されます。

22. 無線の電源管理、サービス品質、送信電力レベル、802.11b プリアンブル、および優先アクセス・ポイントを構成するには、「拡張構成」セクションで「設定」をクリックします。これにより、「拡張ワイヤレス設定」ウィンドウが起動します。

拡張ワイヤレス設定

拡張ワイヤレス設定を入力してください:

送信電力レベル

802.11b/g: []

802.11a []

802.11b プリアンブル

ショートおよびロング(S)

ロングのみ(L)

QoS を使用可能にする(Q)

無線管理サポートを使用可能にする(R)

省電力モード(M):

高(最も省電力)

優先アクセスポイント MAC アドレス

アクセスポイント 1(1) []

アクセスポイント 2(2) []

アクセスポイント 3(3) []

アクセスポイント 4(4) []

OK キャンセル

図 19. 「拡張ワイヤレス設定」ウィンドウ

以下の設定が選択可能です。

送信電力レベル

送信電力レベルを最小 10% から最大 100% の間で選択します。この設定は、レベルを低くして送信する場合に使用します。値は、アクセス・ポイントからの通知に対応して自動的に設定されています。

802.11b プリアンブル

デフォルト設定は「ショートおよびロング」です。この設定は、長いプリアンブルを受け入れない古いアクセス・ポイントとの互換性のために組み込まれています。

QoS を使用可能にする

ビデオ・ストリームなどのデータ送信時に優先順位を設定する場合、このチェック・ボックスを選択します。

省電力モード

省電力モードは、3 つの段階で調整できます。このモードは、ロケーション・プロファイルごとに設定できます。

優先アクセス ポイント MAC アドレス

アクセス・ポイントの MAC アドレスを指定すると、そのアドレスへの接続のみが確立されます。MAC アドレスを指定しない場合、システムは自動的に SSID を検出して、その SSID に接続します。

適切な設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

23. 「次へ」をクリックします。
24. ステップ 38 (26 ページ) に進みます。
25. ステップ 5 (8 ページ) で「**有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム)**」を選択していて、ご使用のブロードバンド接続が DSL である場合は、「**DSL 設定を構成する**」も選択する必要があります。

26. 「次へ」をクリックします。電話帳設定ページが表示されます。

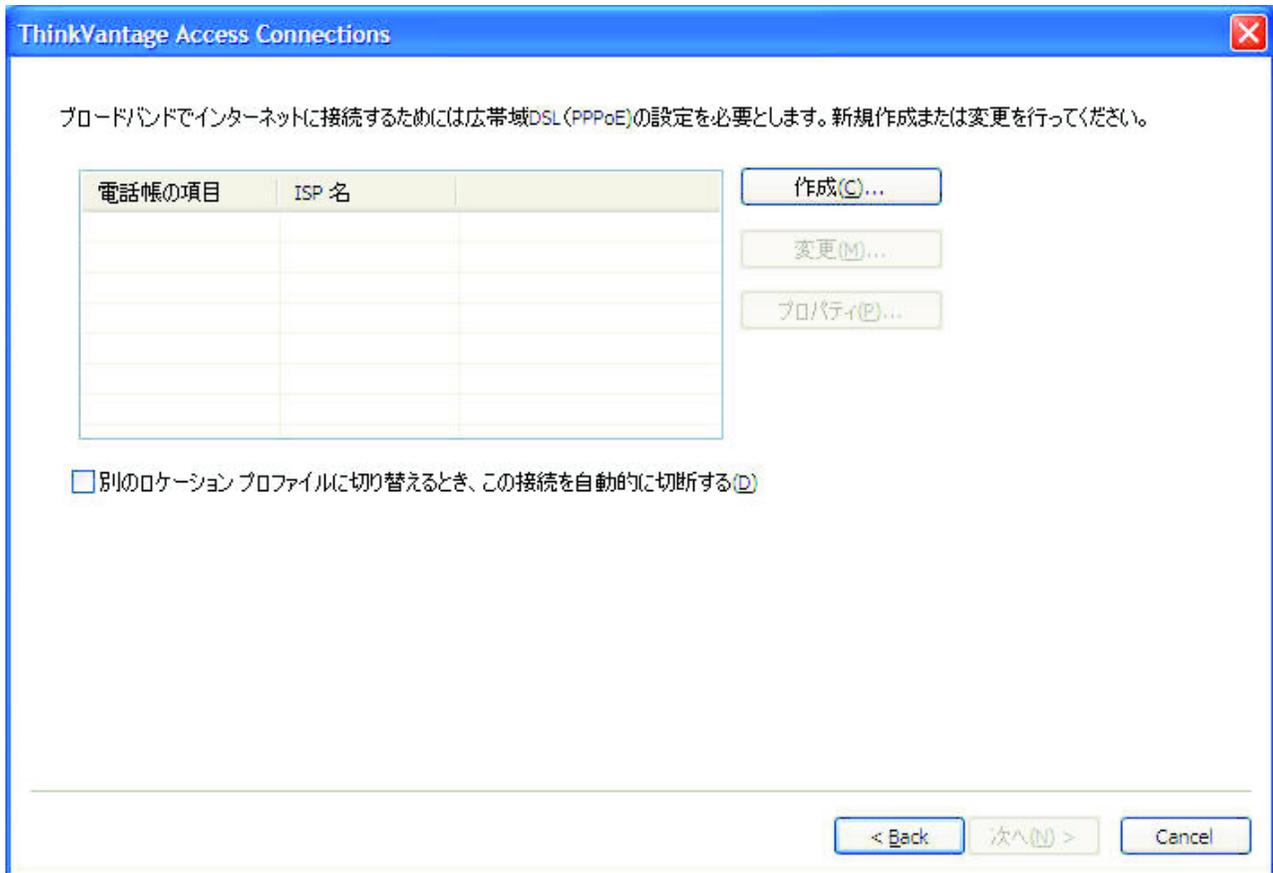


図 20. 電話帳設定ウィンドウ

27. 電話帳の項目を選択または作成します。DSL アカウントの詳細を入力するには、「プロパティ」をクリックします。

28. 「DSL アカウント詳細の入力」ウィンドウが表示されます。

DSL アカウント詳細の入力

電話帳の項目の名前(H): |

ISP 名(I):

ユーザー名とパスワードを保管する(U)

ユーザー名(S):

パスワード(P):

パスワードの確認(C):

OK キャンセル

図 21. 「DSL アカウント詳細の入力」ウィンドウ

必要な情報を入力してから、「OK」をクリックします。

29. 「次へ」をクリックします。
30. ステップ 38 (26 ページ) に進みます。
31. ステップ 5 (8 ページ) で「ダイヤルアップ (モデムまたは携帯電話)」を選択した場合、「次へ」をクリックします。
32. ダイヤルアップ接続の場合、ダイヤラー・プログラムが必要です。

サービス・プロバイダーにより提供されるダイヤラー・アプリケーションを使用するには、「ダイヤラ プログラムの検出」を選択します。

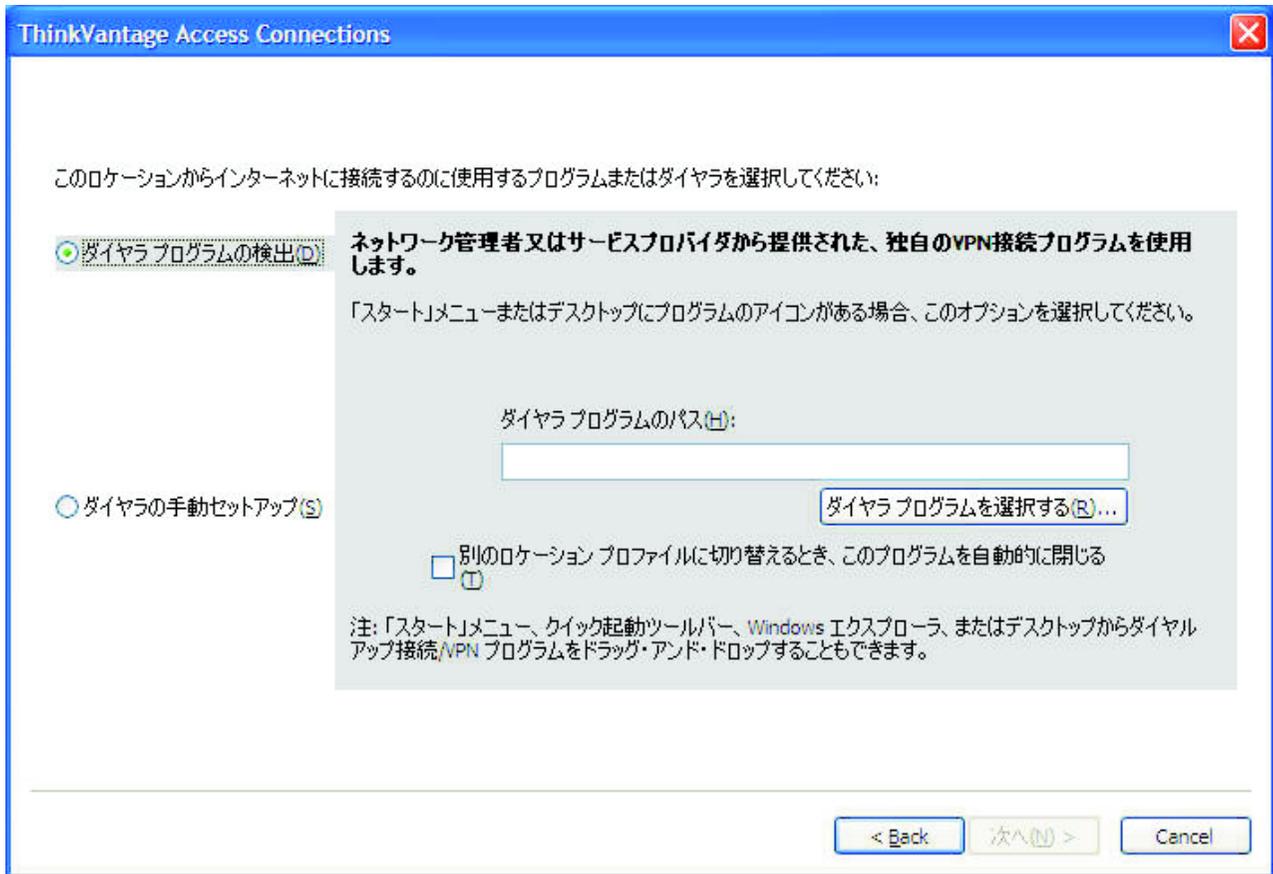


図 22. 「ダイヤラ プログラムの検出」 ウィンドウ

「ダイヤラ プログラムを選択する」をクリックしてパスを入力します。

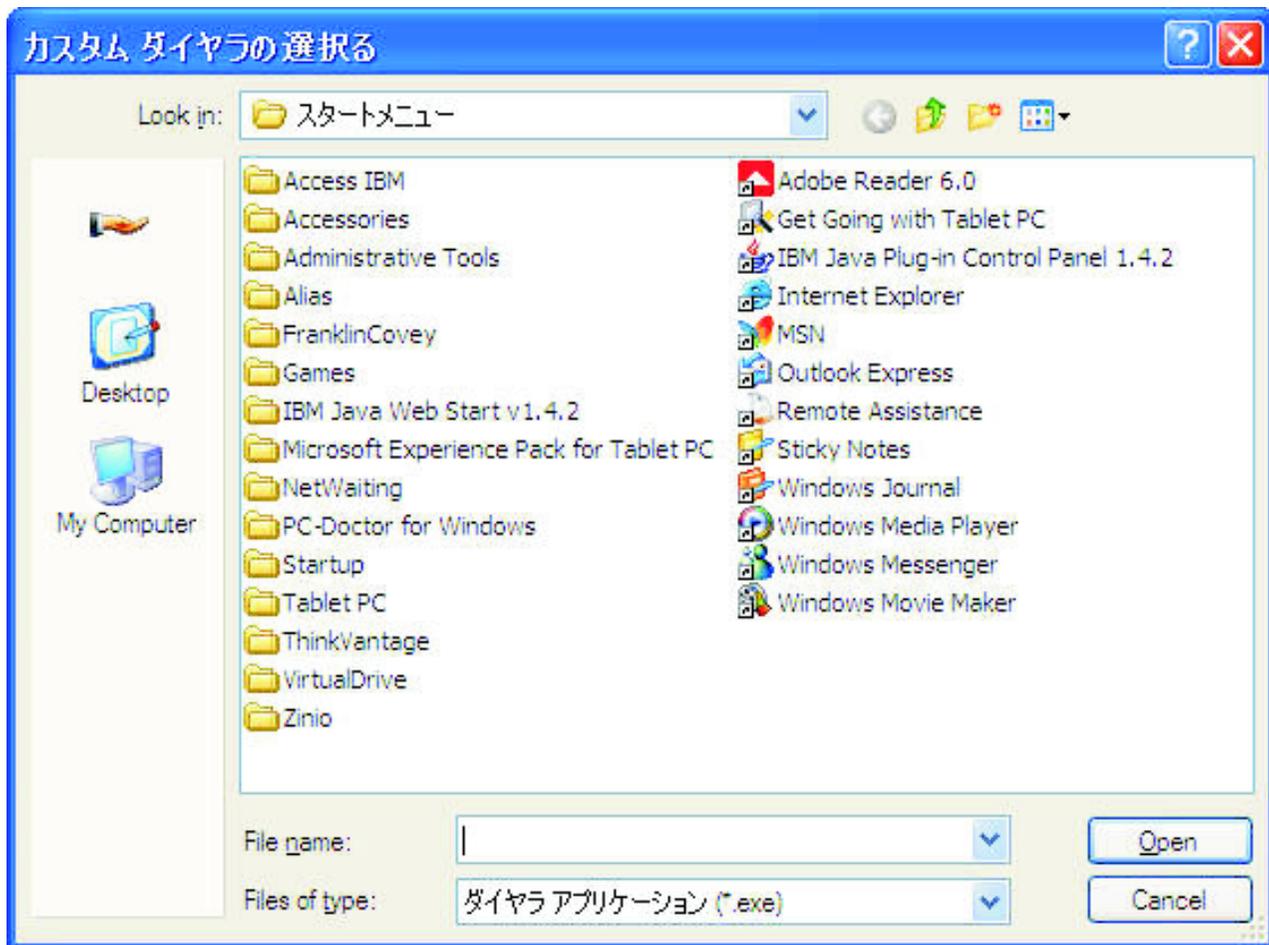


図 23. 「カスタム・ダイヤラを選択する」ウィンドウ

Windows により提供されるダイヤラー・アプリケーションを使用するには、「ダイヤラーの手動セットアップ」を選択します。次に、既存の電話帳の項目を選択するか、新規項目を追加します。

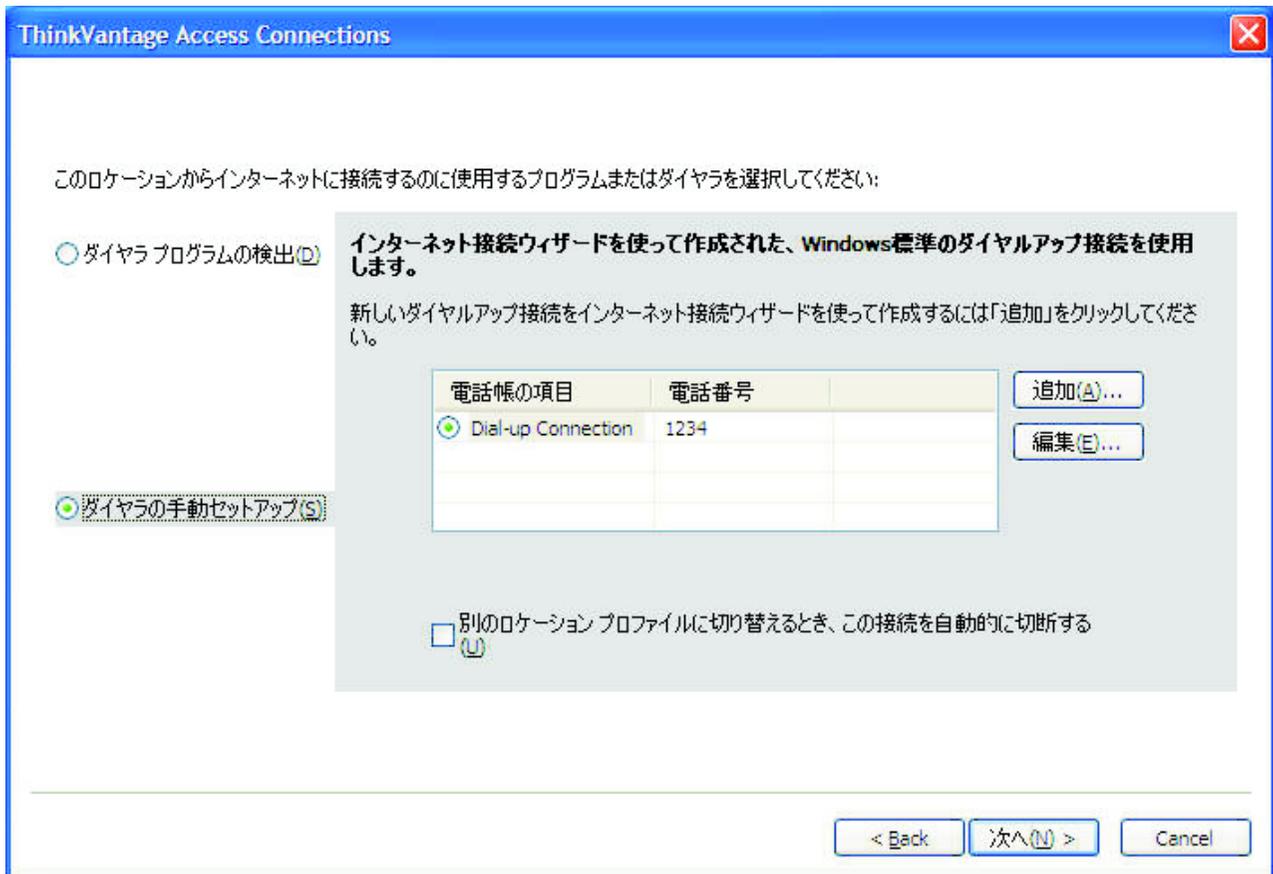


図 24. 「ダイヤラーの手動セットアップ」ウィンドウ

33. 「次へ」をクリックします。
34. ステップ 38 (26 ページ) に進みます。
35. ステップ 5 (8 ページ) で「無線 WAN」を選択した場合、リストからアダプターを選択して、「次へ」をクリックします。
36. 「Access Connections の使用」オプションまたは「無線 WAN クライアント・ユーティリティーの使用」オプションのいずれかを選択して、接続設定を構成します。

内蔵カード用に選択できる「Access Connections の使用」オプションを選択した場合、試行する接続を選択できます。次に、詳細設定を選択して、ネットワークまたはローミング設定を構成します。

「無線 WAN クライアント・ユーティリティーの使用」を選択すると、サービス・プロバイダーにより提供されたユーティリティーを参照できます。プロファイルを適用するたびに、無線 WAN 接続を管理するクライアント・ユーティリティーを起動します。

37. 「次へ」をクリックします。

38. 「追加設定」ウィンドウが表示されます。

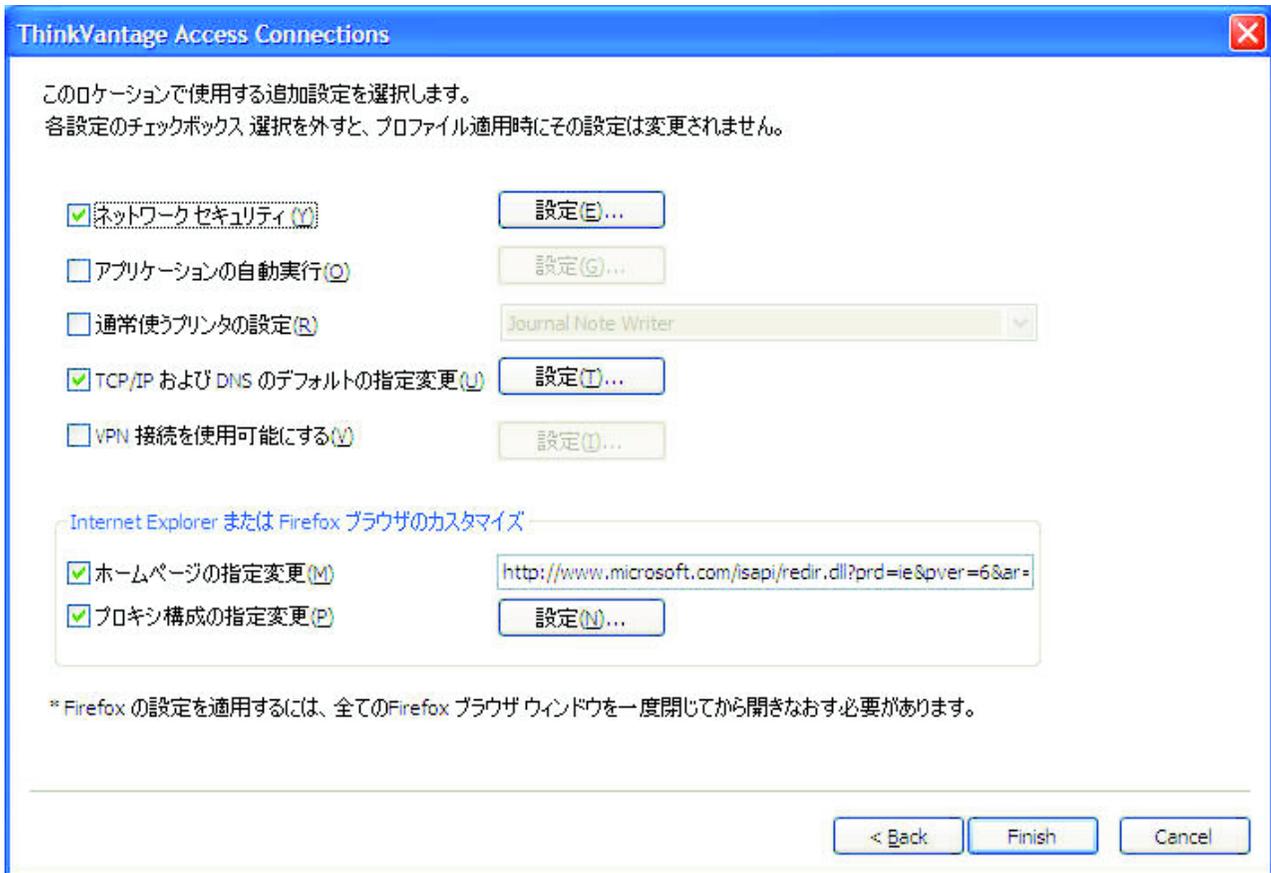


図 25. 「追加設定」ウィンドウ

必要に応じて追加設定を変更します。

39. 「完了」をクリックします。確認パネルが表示されます。
40. 「保管」をクリックします。
41. 新しく作成したプロファイルを自動的に切り替えられるプロファイルのリストに追加するには、「このロケーション・プロファイルをロケーションの自動切り替えリストに追加する」を選択します。プロファイルを一時的な接続に使用する場合 (ホット・スポットへの無線 LAN 接続など)、この手順をスキップできます。

追加設定

プロファイルがアクティブになっているときに設定の追加カテゴリーを適用するには、カテゴリーを選択してから、対応する「設定」ボタンをクリックするか、対応するテキスト・フィールドに値を入力します。プロファイルがアクティブになっているときにカテゴリーの設定を未変更のまま残す場合は、対応するチェック・ボックスを選択しないでください。

ネットワーク・セキュリティー

「セキュリティ設定」ウィンドウで、以下のオプションから 1 つ以上を選択します。

ファイルおよびプリンターの共有を使用不可にする

Microsoft ベース・ネットワーク上にある他のコンピューターがユーザーのファイルおよびプリンターにアクセスできないようにします。このオプションは、Windows XP でのみ選択できます。

インターネット接続の共有を使用不可にする

ローカル・ネットワーク上にある他のコンピューターがユーザーのコンピューターをブリッジとして使用して、ユーザーのインターネット接続を介してネットワーク・リソースにアクセスできないようにします。

Windows ファイアウォールを使用可能にする

ネットワークからユーザーのコンピューターへの無許可アクセスを防止します。このオプションは、Windows XP でのみ選択できます。Windows XP Service Pack 2 では、この設定はデフォルトで選択されています。デフォルトの OS 設定を使用不可にするには、このチェック・ボックスをクリアします。この設定が使用可能になっていると VPN 接続を確立できません。VPN 接続を使用するには、このチェック・ボックスをクリアします。

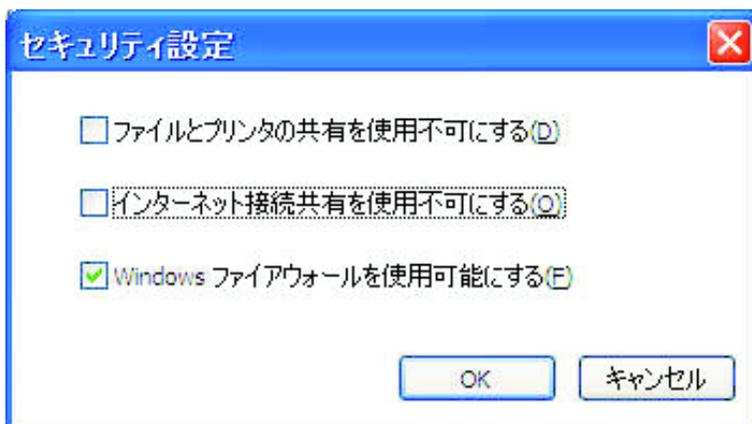


図 26. 「セキュリティ設定」ウィンドウ

アプリケーションの自動開始

自動的に起動するプログラムを選択できます。プロファイルのネットワーク接続がアクティブになる前または後にプログラムを実行することを指定できます。

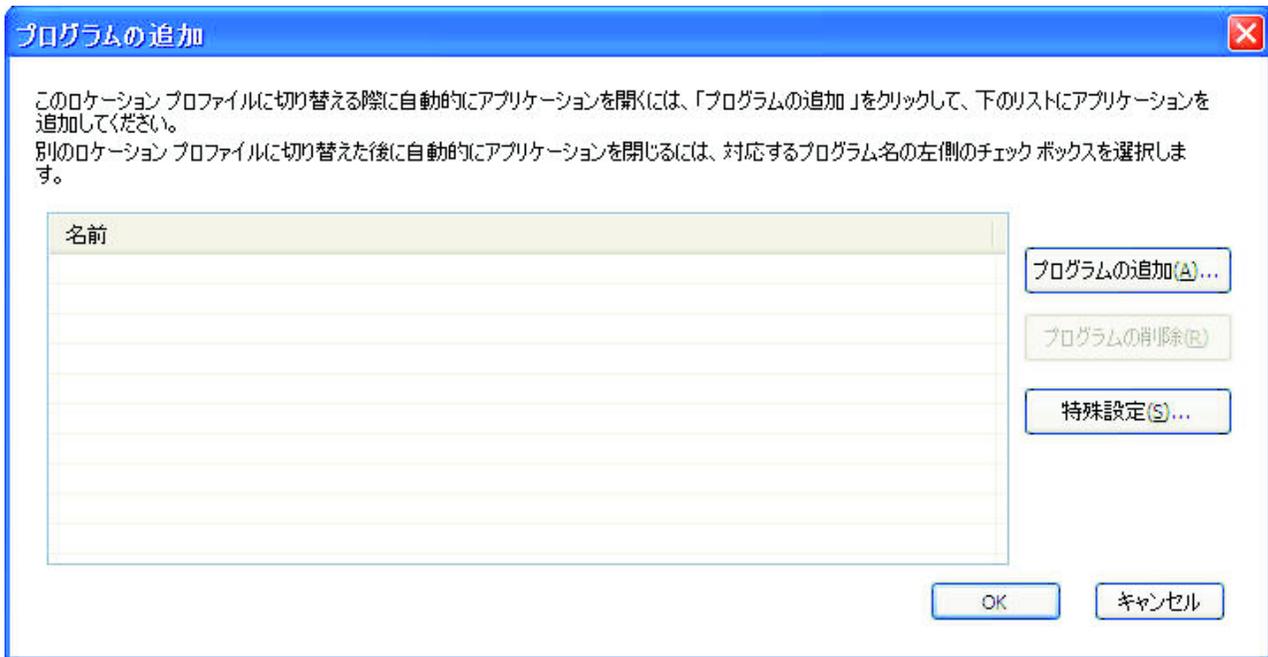


図 27. 「プログラムの追加」ウィンドウ

別のプロファイルに切り替えたときにプログラムを自動的に閉じるには、登録済みプログラムの左側にあるチェック・ボックスを選択します。

ネットワークに接続する前にプログラムを自動的に閉じるには、「特殊設定」パネルでこのアプリケーションの名前を入力します。コンピューターは、このプログラムが閉じた後でのみ、ネットワークに接続します。

デフォルト・プリンターの設定

デフォルトで使用されるプリンターを選択します。他に指定しない限り、すべての印刷ジョブはこのプリンターに送信されます。こうすると、ロケーションを切り替えるたびに手動でプリンターを切り替えずに、印刷することができます。

TCP/IP および DNS のデフォルトの指定変更

TCP/IP および DNS の設定を、自動的に DHCP ネットワーク・サーバーから取得するのか、静的アドレスを使用してローカルに定義するのかが選択します。

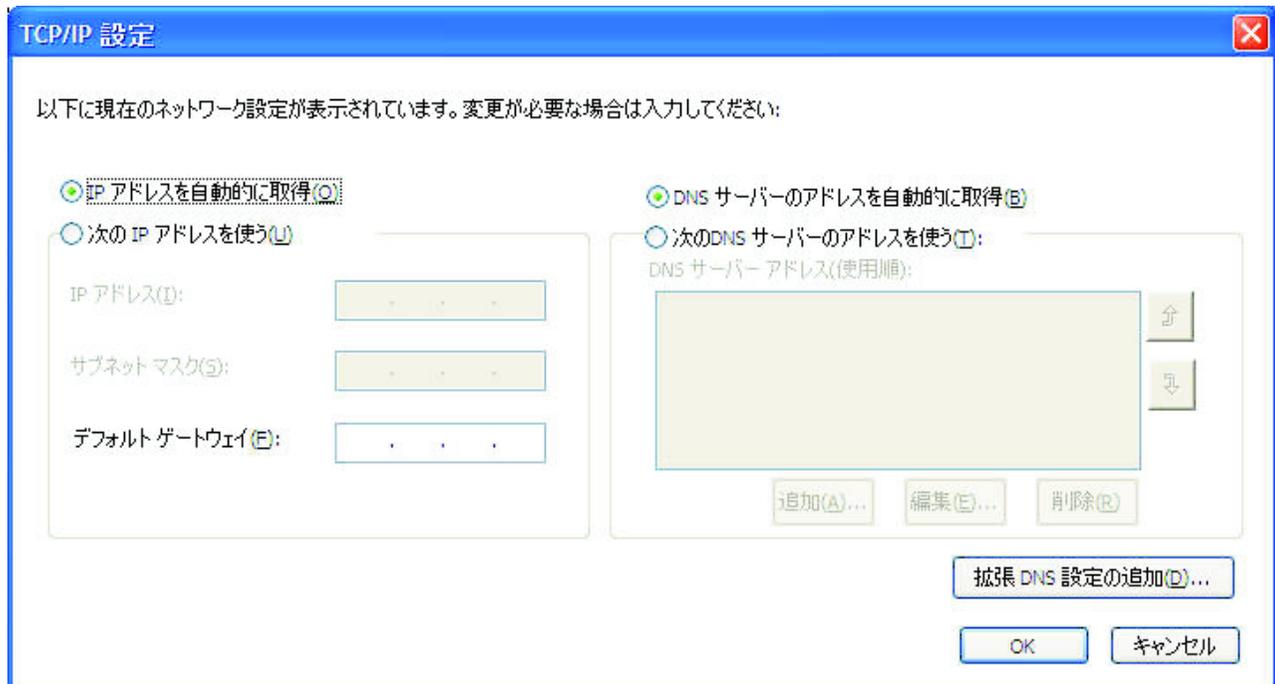


図 28. TCP/IP 設定

VPN 接続を使用可能にする

インターネットに接続するのに仮想プライベート・ネットワーク (VPN) を使用するかどうかを選択します。VPN 接続について詳しくは、43 ページの『VPN 設定の編集』を参照してください。

ホーム・ページの指定変更

Internet Explorer または Firefox ブラウザーのホーム・ページを設定するかどうかを選択します。

プロキシ構成の指定変更

このロケーションで使用するためのプロキシ・サーバーを定義するかどうかを選択します。

ワイヤレス・セキュリティ設定

固定 WEP キーを使用

ワイヤレス・セキュリティの種別として「固定 WEP キーを使用」を選択した場合、「固定 WEP 設定」ウィンドウが開きます。

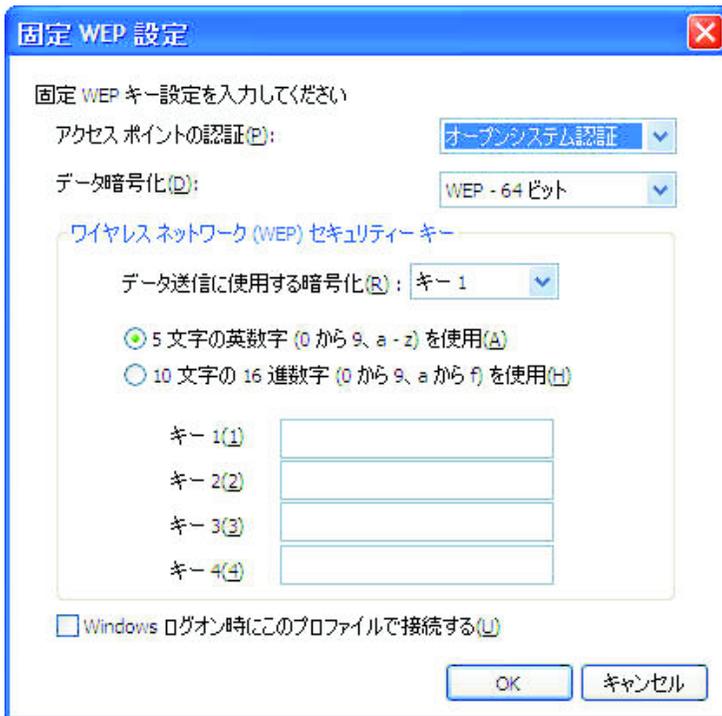


図 29. 「固定 WEP 設定」ウィンドウ

ここでは、以下の設定を構成する必要があります。

データ暗号化

WEP キー長として「64bit (WEP - 64 ビット)」または「128bit (WEP - 128 ビット)」を選択します。

実際のキー長を判別するには、指定値から初期ベクトル (24 ビット) を減算します。つまり、64 ビット・キーでは 40 ビットまたは英数字 5 文字、128 ビット・キーでは 104 ビットまたは英数字 13 文字を使用できます。

データ送信に使用する暗号化

下記に定義されている 4 つのキーから 1 つを選択します。選択されたキーは、実際のデータ送信の暗号化に使用されます。

キーは、英数字または 16 進文字で入力できます。文字数については、『データ暗号化』を参照してください。

Windows ログオン時にこのプロファイルで接続する

最初にコンピューターの電源をオンにするときに、Windows にログオンせずに、このプロファイルを使用してネットワークに接続する場合、このチェック・ボックスを選択します。

Wi-Fi プロテクト・アクセス - プリ シェアード キー (WPA-PSK) を使用

ワイヤレス・セキュリティの種別として「**WPA-PSK キーを使用**」を選択した場合、「WPA-PSK 設定」ウィンドウが開きます。

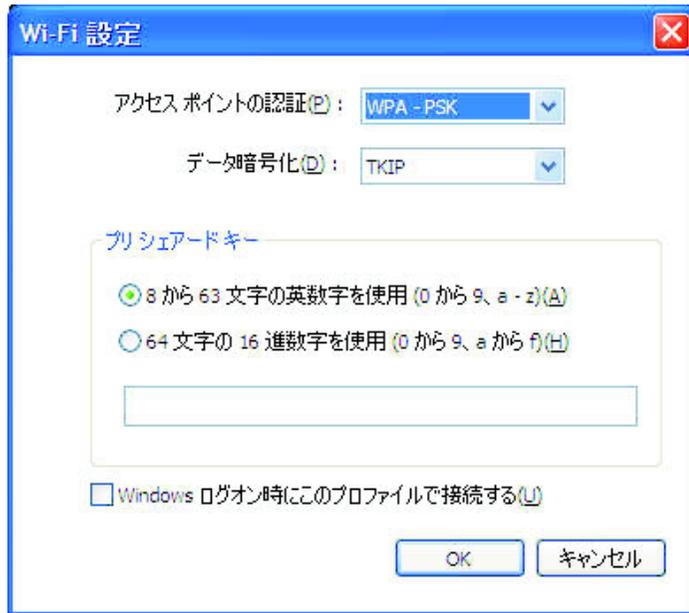


図 30. 「Wi-Fi 設定」ウィンドウ

以下の設定を構成できます。

データ暗号化

ポップアップに、ご使用のシステムに取り付けられている無線 LAN カードで使用できるデータ暗号化モードがリストされます。データ暗号化モード (WEP、TKIP、または AES など) を選択します。モードは、アクセス・ポイントの設定と一致している必要があります。適切な設定については、ネットワーク管理者に相談してください。

プリ シェアード キー

ここで入力するキーは、実際の送信の暗号化に使用されます。アクセス・ポイントで設定されているのと同じキーを入力します。英数字または 16 進文字のどちらでも使用できます。16 進文字を使用する場合、必ず 64 文字すべてを正確に入力してください。

Windows ログオン時にこのプロファイルで接続する

最初にコンピューターの電源をオンにするときに、Windows にログオンせずに、このプロファイルを使用してネットワークに接続する場合、このチェック・ボックスを選択します。

Windows 標準機能を使用して 802.1x を構成する

ご使用のコンピューターが Windows を実行している場合、Windows 標準機能または Access Connections のいずれかを選択して、WPA などの 802.1x を構成できます。Access Connections を使用して構成されたプロファイルは、パッケージとして配布できます。ロケーション・プロファイルの配布について詳しくは、81 ページの『付録 A. よくある質問』の質問 9 (82 ページ) および質問 10 (82 ページ) を参照してください。

このモードを選択すると、Access Connections は無線 LAN の構成を処理しません。Access Connections を使用して直接構成できないアダプターを構成する場合に、このモードを選択してください。このモードを使用する際、以下の点に注意してください。

- ご使用のコンピューターに取り付けられた無線 LAN アダプターによっては、コンピューターが中断モードから戻るとき、アクセス・ポイントへの再接続または 802.1x 認証に長い時間がかかる場合があります。
- Access Connections を使用して構成されたロケーション・プロファイルが他にある場合、Windows 標準機能を使用して構成されたロケーション・プロファイルへの切り替えには時間がかかります。
- Access Connections を使用して構成されたロケーション・プロファイルが有効でなくなった場合 (別のロケーションに移動した場合など)、別のロケーション・プロファイルに切り替えることができます。ただし、Windows で構成されたロケーション・プロファイルの場合は、再度 Windows にログオンする必要があります。ドメイン・ログオンを伴うロケーションの自動切り替えはサポートされません。

Windows 標準機能を使用して 802.1x を構成するには、ワイヤレス・セキュリティの種別として「**Windows を使用してワイヤレス ネットワークを構成**」を選択します。「802.1x 設定」ウィンドウが開きます。「**認証のプロパティ**」をクリックします。

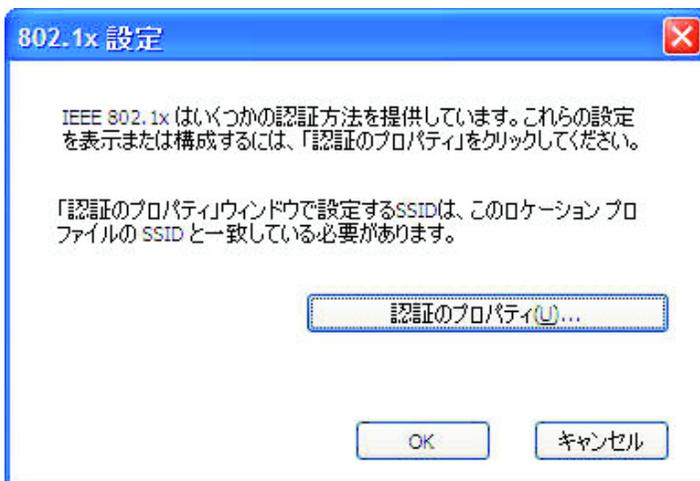


図 31. 「802.1x 設定」ウィンドウ

Windows の「認証のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

次のように設定を構成します。

- 「アソシエーション」タブ

SSID ここで入力する SSID は、前にステップ 17 (16 ページ) で入力したものと一致している必要があります。

データ暗号化

データ暗号化が必要な場合、「キーは自動的に提供される」を選択して、その他のオプションが選択されていないことを確認します。

- 「認証」タブ

このネットワークで 802.1x を有効にする

このチェック・ボックスを選択します。

コンピューターの情報を利用できるときは、コンピューターとして認証する

マシン認証を使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

プロパティ

このボタンをクリックして、ご使用の認証に応じた設定を構成します。また、「証明書の発行者」設定を入力する必要があります。

注: Windows 標準機能を使用してワイヤレス・ネットワーク設定を構成すると、認証タイプおよび暗号化タイプなどの無線 LAN カードで使用可能な特定機能が適切にアクティブにならない場合があります。その場合は、セキュリティの種別として「**IEEE 802.1x 認証を使用**」を選択してください。

セキュリティ・モードとして「**Windows を使用してワイヤレス ネットワークを構成**」を選択した場合、Windows XP は無線接続を構成します。

IEEE802.1x 認証の使用

Access Connections の機能を使用して無線 LAN 802.1x 認証の設定を構成するには、「IEEE 802.1x 認証を使用」を選択します。「802.1x 設定」ウィンドウが開きます。

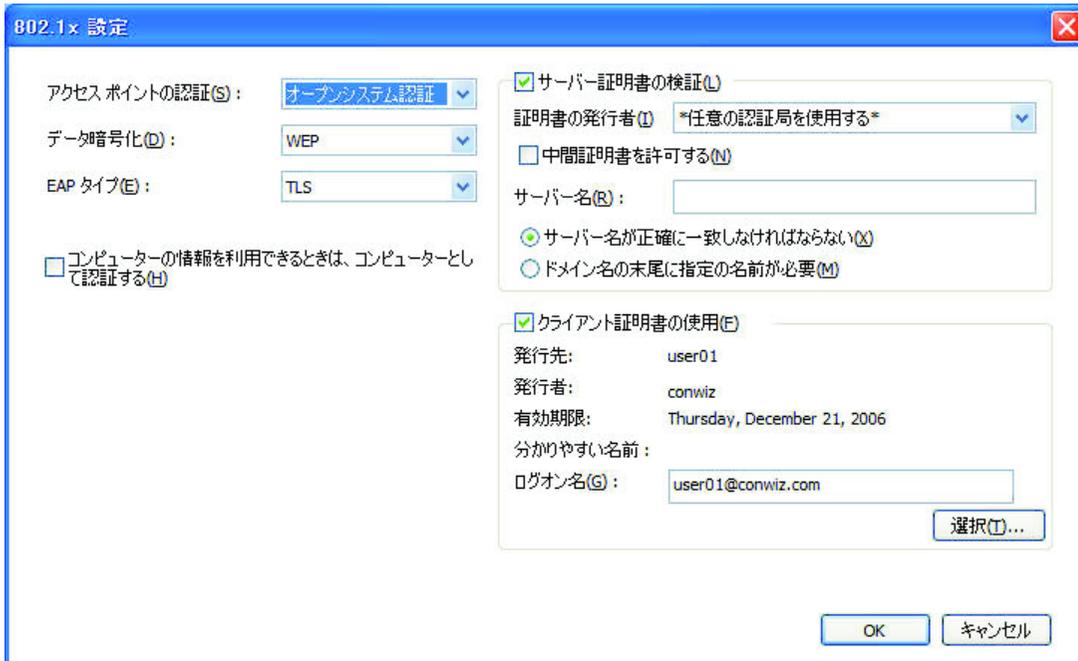


図 32. 「802.1x 設定 — Access Connections」ウィンドウ

以下の設定を構成できます。

アクセス ポイントの認証

以下のタイプから 1 つを選択できます。

- オープン/共有
- WPA
- WPA2

データ暗号化

ご使用のネットワークに適した値を選択します。「アクセス ポイントの認証」の設定として「WPA」を選択する場合、「データ暗号化」を「TKIP」または「AES」のいずれかに設定する必要があります。「WPA2」を選択する場合、デフォルトで「AES」が選択されています。

サーバー証明書の検証

RADIUS サーバーのサブドメイン名 (ibm.com など) の入力が必要になる場合があります。

クライアント証明書の使用

「選択」をクリックします。「証明書の選択」ウィンドウが開きます。

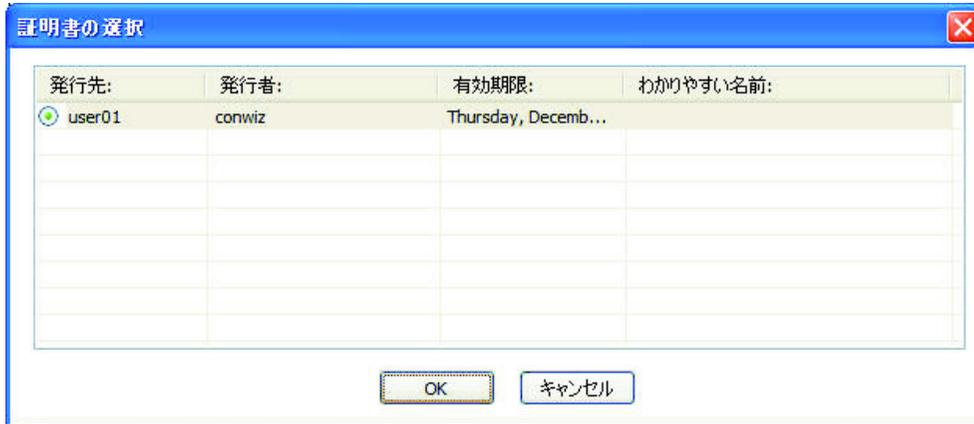


図 33. 「証明書の選択」ウィンドウ

このプロファイルで使用する証明書を選択します。

EAP タイプ

以下のタイプから 1 つを選択します。

- EAP-TLS
- EAP-TTLS
- PEAP-MSCHAP-V2
- PEAP-GTC

EAP 認証のタイプは認証サーバーによって異なります。詳しくは、ネットワーク管理者にご相談ください。

EAP 認証が TLS に設定されている場合:

サーバー証明書の検証

サーバー証明書を検証する必要がある場合、「サーバー証明書の検証」チェック・ボックスを選択して、信頼できるルート証明書の発行者の証明書を指定します。サーバー名が特定のドメイン内にある場合は、そのドメイン・ネームをサーバー名フィールドで指定します。

サーバー証明書の検証を必要としない場合、「サーバー証明書の検証」チェック・ボックスをブランクのままにしておきます。この場合、アプリケーションはサーバーの信頼性を検査しないため、接続は厳重に保護されたものとはなりません。

クライアント証明書

クライアント証明書の使用は必須です。特定の証明書を指定するには、「選択」ボタンを押して、リストから証明書を選択します。誤った証明書または有効期限が切れた証明書が選択された場合、接続は確立されません。選択された証明書が有効である場合、証明書に表示されるログオン ID が自動的に「ログオン名」フィールドに入力されます。

コンピューターの情報を利用できるときは、コンピューターとして認証する

IBM ワイヤレス・アダプターを使用する場合、認証にマシン認証を使用できます。そのためには、「コンピューターの情報を利用できるときは、コンピューターとして認証する」チェック・ボックスを選択してから、クライアント証明書を指定せずに設定の構成を続けます。構成されたプロファイルを保管します。接続は完全にコンピューター証明書の情報に基づいて行われます。

クライアント認証を指定し、「コンピューターの情報を利用できるときは、コンピューターとして認証する」チェック・ボックスも選択する場合、コンピューター証明書およびクライアント証明書の両方が認証されます。

コンピューター認証を使用して、ネットワーク・ドメインにログオンすることができます。

EAP 認証が TTLS に設定されている場合:

サーバー証明書の検証

サーバー証明書を検証する必要がある場合、「サーバー証明書の検証」チェック・ボックスを選択して、信頼できるルート証明書の発行者の証明書を指定します。サーバー名が特定のドメインに属する場合、そのドメイン・ネームをサーバー名フィールドで指定します。

サーバー証明書の検証を必要としない場合、「サーバー証明書の検証」チェック・ボックスを空白のままにしておきます。アプリケーションはサーバーの信頼性を検査しないため、接続は厳重に保護されたものとはなりません。

ローミング種別

「ローミング種別」フィールドに、Func Software Odyssey Server に登録済みのユーザー・アカウント名を入力します。「トンネル認証」設定のユーザー ID フィールドで指定した名前を指定してください。

トンネル認証

トンネル認証で使用できるプロトコルは MS-CHAP-V2 です。

ユーザーは以下の設定を構成できます (ユーザー名については、「ローミング種別」フィールドで指定したのと同じ名前を入力してください)。

Windows ログオン名とパスワードを使用する

Windows ログオンで使用されるユーザー ID とパスワードが、トンネル認証でも使用されます。この設定は、Windows ログオンのユーザー ID とパスワードを使用して EAP-TTLS の認証を行うシングル・サインオン機能を活動化する場合に有効です。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う」のチェック・ボックスを選択します。トンネル認証およびドメイン・サーバーへのログオンは同時に処理されます。

指紋センサーを使用する Windows へのログオンがサポートされている Lenovo ノートブック製品では、ワイヤレス・ネットワーク認証は自動的に処理されます。

一時的なユーザー ID とパスワードを使用する

この設定を選択すると、このロケーション・プロファイルをデプロイするときに、トンネル認証のユーザー ID とパスワードを入力するよう求めるメッセージが表示されます。必要な情報を入力した後、認証が開始します。このオプションは、ワイヤレス・ネットワークを手動で接続するために使用されます。

保管済みのユーザー ID とパスワードを使用する

トンネル認証のユーザー ID とパスワードは事前に設定されています。

ワイヤレス・ネットワーク認証での Windows ログオンのユーザー名とパスワードの使用を使用可能にすると、Windows ログオン時にトンネル認証で使用可能なユーザー ID とパスワードが使用され、コンピュータは Windows ドメイン・サーバーにログオンします。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。

EAP 認証が PEAP に設定されている場合:

サーバー証明書の検証

サーバー証明書を検証する必要がある場合、「**サーバー証明書の検証**」チェック・ボックスを選択して、信頼できるルート証明書の発行者の証明書を指定します。サーバー名が特定のドメインに属する場合、そのドメイン・ネームをサーバー名フィールドで指定します。

サーバー証明書の検証を必要としない場合、「**サーバー証明書の検証**」チェック・ボックスを空白のままにしておきます。アプリケーションはサーバーの信頼性を検査しないため、接続は厳重に保護されたものとはなりません。

ローミング種別

「**ローミング種別**」フィールドに、RADIUS サーバーに登録済みのユーザー・アカウントの名前を入力します。「**トンネル認証**」設定のユーザー ID フィールドで指定した名前を指定してください。

トンネル認証

以下のプロトコルがトンネル認証でサポートされます。

- MS-CHAP-V2
- GTC (Generic Token Card)

トンネル認証を MS-CHAP-V2 に設定する場合、以下の設定を構成できます（「**ローミング種別**」フィールドで指定した名前を入力してください）。

Windows ログオン名とパスワードを使用する

Windows ログオンで使用されるユーザー ID とパスワードが、トンネル認証でも使用されます。この設定は、Windows ログオンのユーザー ID とパスワードを使用して EAP-PEAP の認証を行うシングル・サインオン機能を活性化する場合に有効です。この設定を使用可能にするには、「**オプション**」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。トンネル認証およびドメイン・サーバーへのログオンは同時に処理されます。

指紋センサーを使用する Windows へのログオンがサポートされている Lenovo ノートブック製品では、ワイヤレス・ネットワーク認証は自動的に処理されます。

一時的なユーザー ID とパスワードを使用する

この設定を選択すると、このロケーション・プロファイルをデプロイするときに、トンネル認証のユーザー ID とパスワードを入力するよう求めるメッセージが表示されます。必要な情報を入力した後、認証が開始します。このオプションは、ワイヤレス・ネットワークを手動で接続するために使用されます。

保管済みのユーザー ID とパスワードを使用する

トンネル認証のユーザー ID とパスワードは事前に設定されています。

ワイヤレス・ネットワーク認証での Windows ログオンのユーザー名とパスワードの使用を使用可能にすると、Windows ログオン時にトンネル認証で使用可能なユーザー ID とパスワードが使用され、コンピューターは Windows ドメイン・サーバーにログオンします。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。

トンネル認証を GTC に設定する場合、以下の設定を構成できます。

ワンタイム トークン (パスワード) を使用する

GTC トンネル認証では、RSA セキュリティーにより指定されるトークンというトンネル認証の一時的なパスワードが入力された後に、接続が確立されます。この設定を適用するには、このチェック・ボックスを選択します。その後、ロケーション・プロファイルをデプロイするたびに、トークン番号および ID の入力を求めるメッセージが表示されます。

一時的なユーザー ID とパスワードを使用する

この設定を選択すると、このロケーション・プロファイルをデプロイするときに、トンネル認証のユーザー ID とパスワードを入力するよう求めるメッセージが表示されます。必要な情報を入力した後、認証が開始します。このオプションは、ワイヤレス・ネットワークを手動で接続するために使用されます。

保管済みのユーザー ID とパスワードを使用する

トンネル認証のユーザー ID とパスワードは事前に設定されています。

ワイヤレス・ネットワーク認証での Windows ログオンのユーザー名とパスワードの使用を使用可能にすると、Windows ログオン時にトンネル認証で使用可能なユーザー ID とパスワードが使用され、コンピューターは Windows ドメイン・サーバーにログオンします。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。

802.1x - EAP Cisco (LEAP) を使用

EAP Cisco (LEAP) モードを選択した場合、Cisco LEAP を使用するために必要なユーザー ID とパスワードの設定を構成できます。「LEAP 設定」ウィンドウが表示されます。

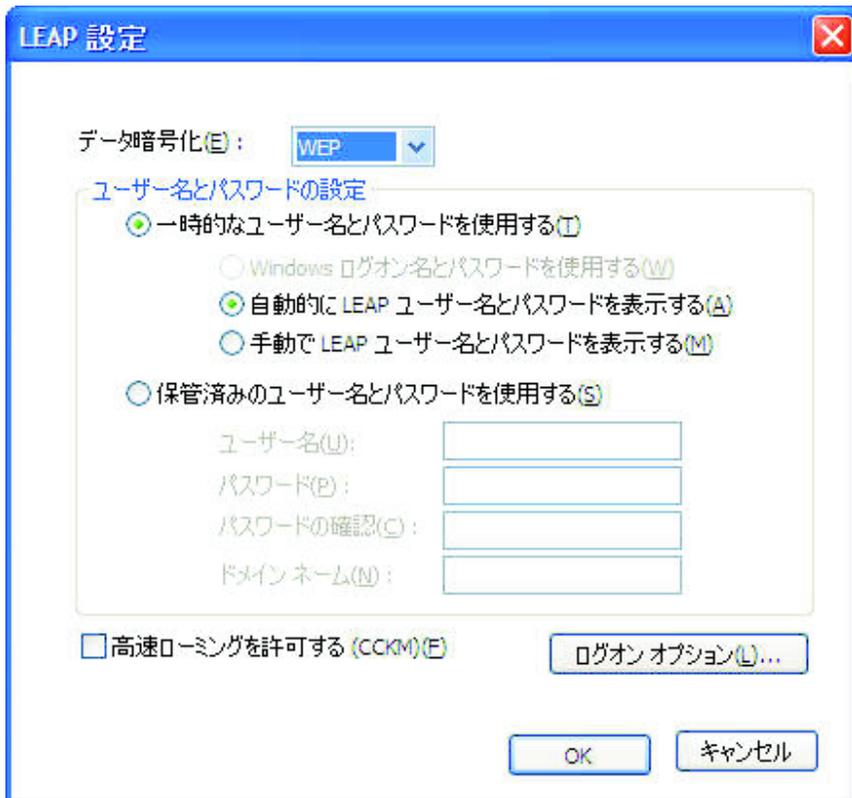


図 34. 「LEAP 設定」ウィンドウ

以下の設定を構成します。

データ暗号化

以下のオプションから 1 つを選択します。

- WEP
- CKIP
- TKIP
- AES

次のようにユーザー名とパスワードを構成します。

Windows ログオン名とパスワードを使用する

Windows ログオンで使用されるユーザー ID とパスワードが、LEAP 認証でも使用されます。この設定は、Windows ログオンのユーザー ID とパスワードを使用して LEAP 認証を処理するシングル・サインオン機能を活性化する場合に有効です。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う」チェック・ボックスを選択します。トンネル認証およびドメイン・サーバーへのログオンは同時に処理されます。

指紋センサーを使用する Windows へのログオンがサポートされている Lenovo ノートブック製品では、ワイヤレス・ネットワーク認証は自動的に処理されます。

自動的に LEAP ユーザー名とパスワードを表示する

ロケーション・プロファイルのデプロイ時に表示されるユーザー名とパスワードを入力するよう求めるプロンプトを表示するには (入力されていない場合に)、この設定を選択します。ユーザー名とパスワードを入力した後、認証プロセスが開始します。一度入力された認証情報はコンピューターにより保管され、ログオフするか、コンピューターを再起動しない限り、プロンプトは表示されません。ログオフまたは再起動の後、この情報はクリアされ、次のログオン時に入力が必要になります。このプロンプトは、前回の LEAP 認証で使用されたユーザー名とパスワードが検出されない場合のみ、表示されます。

手動で LEAP ユーザー名とパスワードを表示する

ロケーション・プロファイルをデプロイするたびに、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力した後、認証プロセスが開始します。

保管済みのユーザー名とパスワードを使用する

LEAP 認証のユーザー ID とパスワードは事前に設定されています。

ワイヤレス・ネットワーク認証での Windows ログオンのユーザー名とパスワードの使用を使用可能にすると、Windows ログオン時に LEAP 認証で使用可能なユーザー ID とパスワードが使用され、コンピューターは Windows ドメイン・サーバーにログオンします。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。

Windows ログオン ドメインにユーザー名を組み込む

ネットワークに複数のドメインがある場合、このチェック・ボックスを選択します。こうすると、LEAP 認証時にユーザー名とドメイン・ネームの両方がアクセス・ポイントにより検証されます。

ユーザーがログオンしていない場合はネットワークに接続しない

ユーザーのログオフ時にネットワークから切断する場合、このオプションを選択します。そうでないと、ユーザーがログオフした後もコンピューターは接続を維持します。

LEAP 認証タイムアウト値

LEAP 認証に通常より長い時間がかかる場合、この設定を変更して、接続がタイムアウトになるまでの時間を長くします。デフォルト設定は 60 秒です。一部の無線 LAN アダプターでは、この設定を変更できません。

高速ローミングを許可する (CCKM)

コンピューターの移動時に異なる Cisco アクセス・ポイント間で切り替えられるようにする場合、このオプションを選択します。これは、高速ローミング機能です。こうすると、再認証を必要とせずにアクセス・ポイント間の素早いローミングが可能になります。

802.1x - EAP Cisco (EAP-FAST) を使用

EAP Cisco (EAP-FAST) モードを選択した場合、このセキュリティー・モードを使用するためのユーザー ID とパスワードを設定できます。「EAP FAST 設定」ウィンドウが表示されます。

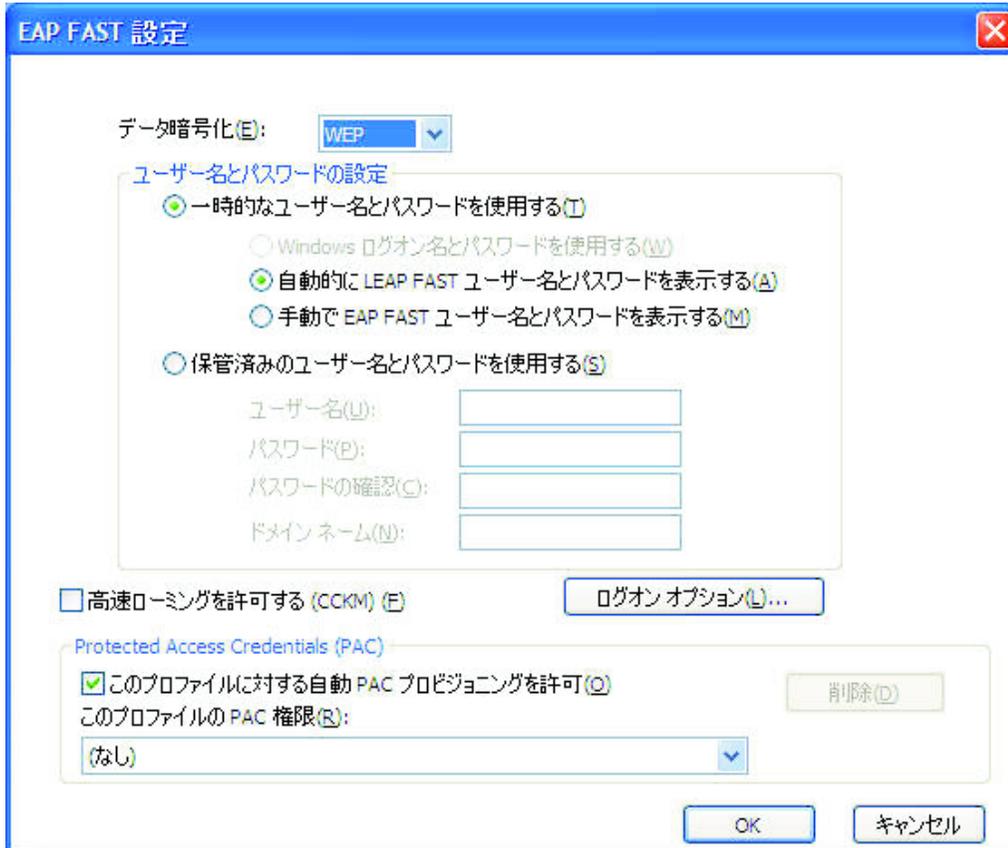


図 35. 「EAP-FAST 設定」ウィンドウ

以下の設定を構成します。

データ暗号化

以下のオプションから 1 つを選択します。

- WEP
- CKIP
- TKIP
- AES

次のようにユーザー名とパスワードを構成します。

Windows ログオン名とパスワードを使用する

Windows ログオンのユーザー ID とパスワードが、EAP-FAST 認証でも使用されます。この設定は、Windows ログオンのユーザー ID とパスワードを使用して EAP-FAST 認証を処理するシングル・サインオン機能を活動化する場合に有効です。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う」チェック・ボックスを選択します。トンネル認証およびドメイン・サーバーへのログオンは同時に処理されます。

指紋センサーを使用する Windows へのログオンがサポートされている Lenovo ノートブック製品では、ワイヤレス・ネットワーク認証は自動的に処理されます。

自動的に EAP-FAST ユーザー名とパスワードを表示する

ロケーション・プロファイルのデプロイ時に表示されるユーザー名とパスワードを入力するよう求めるプロンプトを表示するには (入力されていない場合に)、この設定を選択します。ユーザー名とパスワードを入力すると、すぐに認証が開始します。認証情報はコンピューターにより保管され、ログオフするか、コンピューターを再起動しない限り、プロンプトは表示されません。ログオフまたは再起動の後、この情報はクリアされ、次のログオン時に入力が必要になります。

手動で EAP-FAST ユーザー名とパスワードを表示する

ロケーション・プロファイルをデプロイするたびに、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力した後、認証プロセスが開始します。

保管済みのユーザー名とパスワードを使用する

EAP-FAST 認証のユーザー ID とパスワードは事前に設定されています。ワイヤレス・ネットワーク認証での Windows ログオンのユーザー名とパスワードの使用を使用可能にすると、Windows ログオン時に EAP-FAST 認証で使用可能なユーザー ID とパスワードが使用され、コンピューターは Windows ドメイン・サーバーにログオンします。この設定を使用可能にするには、「オプション」で「**Windows ログオン・ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス・ネットワークの認証を行う**」チェック・ボックスを選択します。

Protected Access Credential (PAC) : このプロファイルに対する自動 PAC プロビジョニングを許可

Cisco ACS サーバーから自動的に PAC ファイルを受信して EAP-FAST 認証を処理する場合、このチェック・ボックスを選択します。自動 PAC プロビジョニングは、EAP-FAST 認証を使用して、Windows サーバー・ドメインにログオンする場合に有用です。

Cisco 802.11b ワイヤレス・アダプターまたは IBM ワイヤレス・アダプターを使用している場合、リストから PAC ファイルを選択して、保管済み PAC ファイルを EAP-FAST 認証で使用できます。これらのアダプターは、PAC ファイルのインポートをサポートします。PAC ファイルをインポートするには、「インポート」ボタンをクリックします。

また、「ログオン・オプション」ボタンを使用して、以下の設定を構成できます。

Windows ログオン・ドメインをユーザー名に追加する

ネットワークに複数のドメインがある場合、このチェック・ボックスを選択します。こうすると、LEAP 認証時にユーザー名とドメイン・ネームの両方がアクセス・ポイントにより検証されます。

ユーザーがログオンしていない場合はネットワークに接続しない

ユーザーのログオフ時にネットワークから切断する場合、このオプションを選択します。そうでないと、コンピューターは接続を維持します。

EAP-FAST 認証タイムアウト

EAP-FAST 認証に通常より長い時間がかかる場合、この設定を変更して、接続がタイムアウトになるまでの時間を長くします。デフォルト設定は 60 秒です。一部の無線 LAN アダプターでは、この設定を変更できません。

高速ローミングを許可する (CCKM)

コンピューターの移動時に異なる Cisco アクセス・ポイント間で切り替えられるようにする場合、このチェック・ボックスを選択します。これは、高速ローミング機能です。こうすると、再認証を必要とせずにアクセス・ポイント間の素早いローミングが可能になります。

VPN 設定の編集

プロファイルの作成時にオプション設定の「**仮想プライベート ネットワーク (VPN) 接続を使用可能にする**」を選択した場合、「VPN 設定」ウィンドウが表示されます。

ネットワークへの接続に使用する VPN プログラムを選択します。ユーザーの会社で提供されている VPN プログラムを使用するには、「**会社から提供されたアプリケーションを使用する**」を選択してから、「**VPN プログラムを選択する**」をクリックします。また、このロケーション・プロファイルに切り替えるときに自動的に VPN アプリケーションを起動したり、別のロケーション・プロファイルに切り替えるときに自動的にこのアプリケーションを閉じたりするように、Access Connections を構成できます。



図 36. 「VPN 設定」 — 「会社から提供されたアプリケーションを使用する」ウィンドウ

「**会社から提供された既存の VPN プログラムを使用する**」を選択すると、Access Connections はこのプログラムを開始します。

IBM Mobility Client を使用するには、「**IBM Mobility Client を使用する**」を選択してから、「**Mobility Client プロファイルを選択する**」をクリックします。このロケーション・プロファイルに切り替えるときに自動的に IBM Mobility Client を起動するように、Access Connections を構成できます。

Windows により提供された VPN プログラムを使用するには、「VPN 接続を手動で設定する」を選択してから、既存の電話帳の項目を選択するか、新規項目を追加します。



図 37. 「VPN 設定」 — 「VPN 接続を手動でセットアップする」ウィンドウ

「Microsoft Windows ネットワークの接続ウィザードを使用して VPN 接続を手動でセットアップする」を選択する場合、「追加」ボタンをクリックして、VPN 接続の作成を続けます。

別のプロファイルに切り替えるときに VPN 接続を自動的に切断するには、「このロケーションに切り替えるとき VPN プログラムを自動的に起動し、別のロケーションに切り替えるときに自動的に閉じる」ボタンのチェック・ボックスを選択します。(一部の VPN プログラムでは、このコマンドが機能しない場合があります。)

ロケーション・プロファイルの管理

ロケーション・プロファイルの作成または削除、あるいは既存プロファイルの設定の編集を行うには、メインツールバーの「ロケーション」でプルダウン・メニューの「プロファイルの管理」を押します。「ロケーション プロファイルの管理」パネルが表示され、選択可能なプロファイルのリストが示されます。

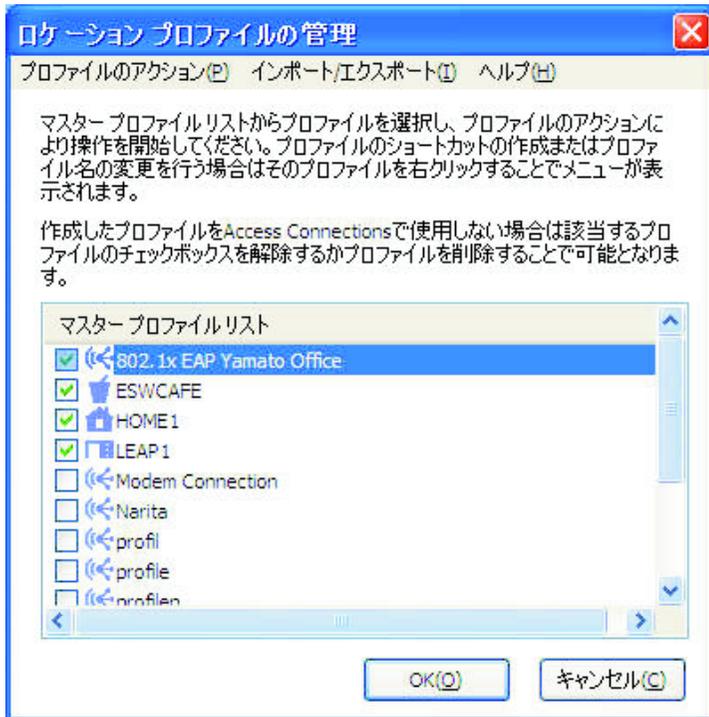


図 38. 「ロケーション・プロファイルの管理」ウィンドウ

プロファイルを選択して、「プロファイルのアクション」にある以下の処置から 1 つを実行します。

作成: 新規ロケーション・プロファイルを作成します。

編集: 選択したプロファイルで使用される設定を変更します。

コピー:

選択したプロファイルをコピーします。

表示: 選択したプロファイルで使用される設定の要約を表示します。

名前変更:

選択されたロケーション・プロファイルの名前を変更します。

デスクトップ・ショートカット:

選択されたロケーション・プロファイルのデスクトップ・ショートカットを作成します。プロファイルを接続 (適用) または切断するためのショートカットを作成できます。

削除: 選択されたロケーション・プロファイルを永続的に削除します。

ロケーション切り替え:

ロケーション・プロファイルを自動的に切り替えます。

デフォルトで、「ロケーション プロファイルの管理」ウィンドウにはすべての既存ロケーション・プロファイルが表示されます。「ロケーション」リストおよび Fn + F5 オンスクリーン・メニューでプロファイル为非表示にする場合、およびロケーションの自動切り替えからプロファイルを削除するには、そのプロファイルの名前の左側にあるチェック・ボックスをクリアします。

ショートカット・アイコンの使用

頻繁に使用する各プロファイルのショートカット・アイコンをデスクトップ上に作成できます。こうすると、ショートカット・アイコンをクリックすることにより、そのロケーション・プロファイルに切り替えることができます。ショートカット・アイコンを作成するには、「ロケーション プロファイルの管理」パネルを開き、プロファイルを選択して右クリックします。プルダウン・メニューから「ショートカットの作成 - 接続」または「ショートカットの作成 - 切断」のいずれかを選択します。

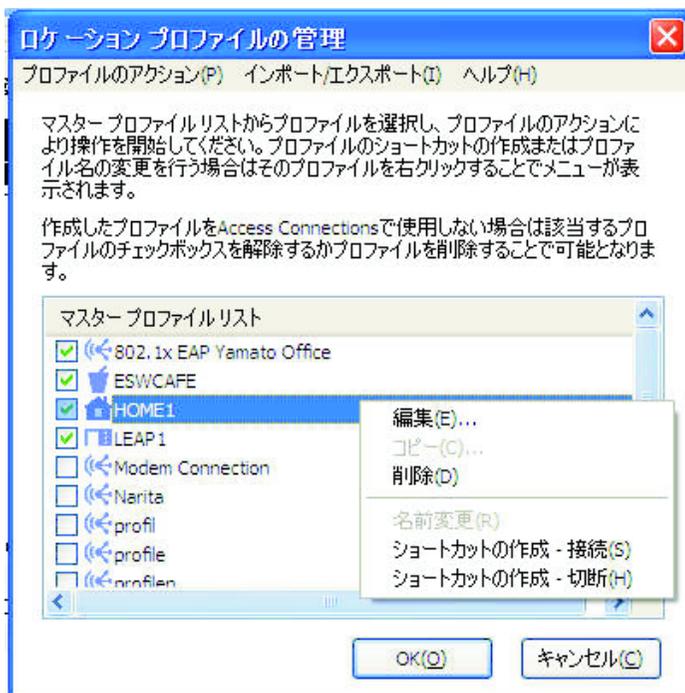


図 39. 「ロケーション プロファイルの管理」ウィンドウ - ショートカットの作成

コマンド・プロンプトからコマンドを入力して、別のプロファイルに切り替えることができます。

```
<path>%qctray.exe /set [ Location profile name ]
```

あらかじめ Access Connections を開始しておく必要はありません。切断するには、次のコマンドを使用します。

```
<path>%qctray.exe /reset [Location profile name]
```

ネットワークへの接続

ネットワークに接続するには、そのロケーション・プロファイルを選択して、適用します。既存のロケーション・プロファイルに接続したり、切り替えるには、メインウィンドウ、Fn + F5 を押すと表示されるオンスクリーン・メニュー、またはシステム・トレイ・アイコンから行います。

メインウィンドウから接続するには、「ロケーション」プルダウン・メニューから現在の場所に一致するロケーション・プロファイルを選択して、「接続」をクリックします。

オンスクリーン・メニューから接続するには、次のようにします。

1. キーボードの Fn キーを押しながら、F5 を押します。両方のキーを離します。
2. オンスクリーン・メニューが表示されます。



図 40. オンスクリーン・ウィンドウ

「ロケーション・プロファイル」タブをクリックします。

3. 現在の場所に一致するロケーション・プロファイルを選択します。

システム・トレイ・アイコンから接続するには、システム・トレイの Access Connections アイコンをクリックしてから、現在の場所に一致するロケーション・プロファイルを選択します。

ワイヤレス・ネットワークへの接続

ご使用のロケーションで使用可能なワイヤレス・ネットワークを検索するには、メインメニューで「ツール」をクリックして、プルダウン・リストから「ワイヤレスネットワークの検索」を選択します。選択可能なアクセス・ポイントのリストが表示されます。



図 41. 「ワイヤレス ネットワークの検索」ウィンドウ

選択可能なネットワークのアクセス・ポイントは、 と示されます。

次の 4 つのアイコンは、ワイヤレス接続のタイプを示しています。

- セキュア無線 LAN ネットワーク



- 非セキュア (オープン) 無線 LAN ネットワーク



- セキュア・ピアツーピア・ネットワーク



- 非セキュア (オープン) ピアツーピア・ネットワーク



アクセス・ポイント・リストを AC3.x フォーマットで表示するには、「詳細を表示」チェック・ボックスを選択します。

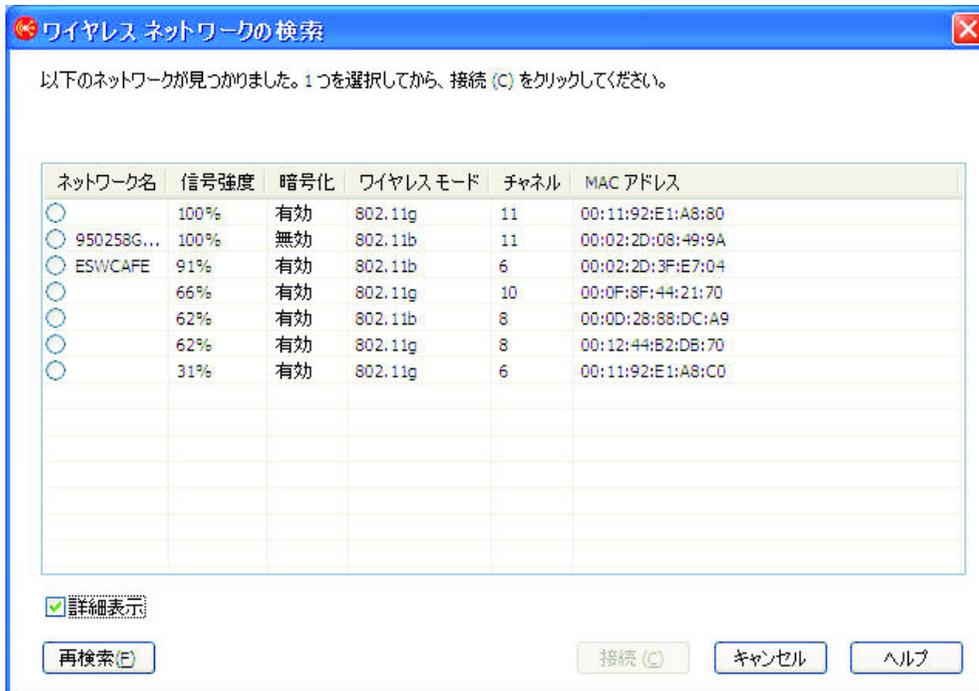


図 42. 「ワイヤレス ネットワークの検索」ウィンドウ — 詳細表示

検出されたアクセス・ポイントが現在ご使用の Lenovo ノートブック製品に関連付けられている場合、そのアンテナには赤色の円のマークが付いています。暗号化されている場合は、青色のセキュリティー・アイコンのマークが付いています。

検出されたネットワークに接続する場合、ネットワークを選択して、「接続」をクリックします。新たに検出されたネットワークの場合、ロケーション・プロファイルが自動的に作成されるか、ロケーション・プロファイルを保管せずに一時的な接続が確立されます。いずれの場合も、暗号化されていないアクセス・ポイントのみに接続できます。暗号化されたアクセス・ポイントに接続するには、正しい暗号鍵が設定されているプロファイルを使用します。Windows XP を使用していてプロファイルが自動的に作成されている場合は、デフォルトで、ファイルおよびプリンターの共有は使用不可に設定されており、ファイアウォールは使用可能になっています。ワイヤレス・ネットワークの検索を開始する前に、無線 LAN アダプターをオンにします。

ロケーション・プロファイルの自動切り替え

コンピュータを移動すると、Access Connections は、ユーザーの代わりに自動的に使用可能な無線 LAN (802.11) およびイーサネット・ネットワークを検出して、対応するロケーション・プロファイルを適用します。

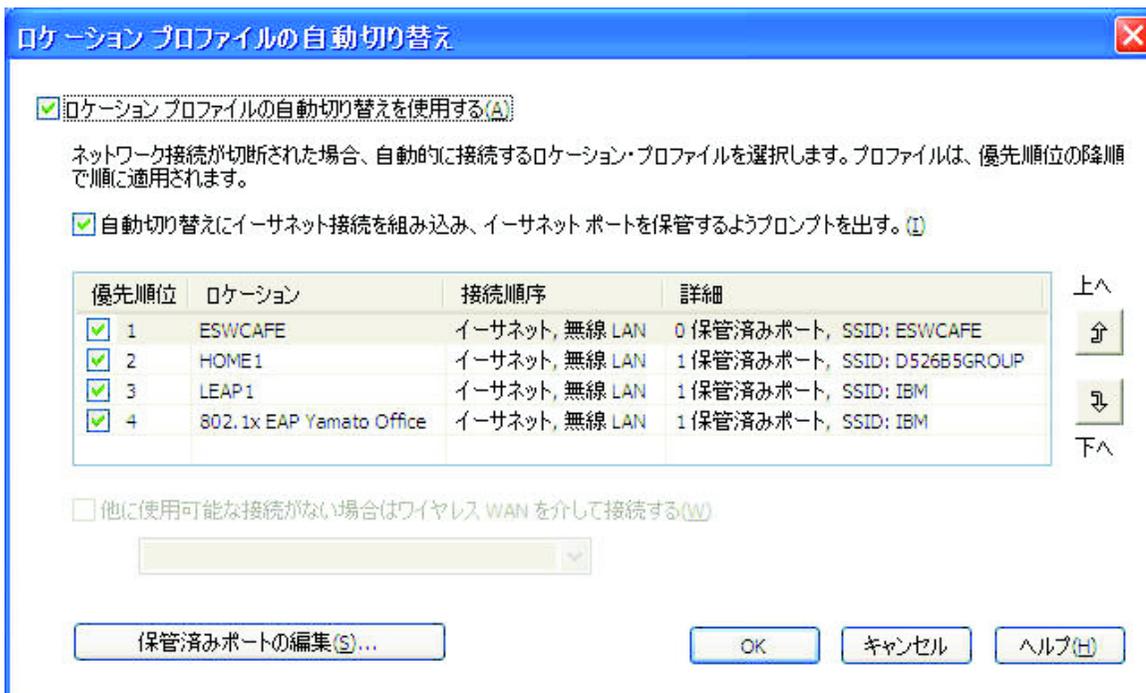


図 43. 「ロケーション プロファイルの自動切り替え」 ウィンドウ

ロケーション・プロファイルの自動切り替えを構成するには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「ロケーション プロファイルの自動切り替え」を選択します。
3. ロケーション・プロファイルの自動切り替えを使用可能にするには、「ロケーション プロファイルの自動切り替えを使用する」を選択します。こうすると、アクティブな接続が失われた場合に、Access Connections が、プロファイルのリストで使用可能な無線 LAN ネットワークに一致するプロファイルを一覧にリストされた順序で検索します。そのようなプロファイルが検出されると、接続を復元するために、そのプロファイルが適用されます。プロファイルの順序を変更するには、プロファイルを選択して、「上へ」または「下へ」をクリックします。
4. 自動切り替えの際に Access Connections が使用可能な有線ネットワークの有無を (無線 LAN ネットワークに加えて) 検査するように設定するには、「自動切り替えにイーサネット接続を組み込み、イーサネット・ポートを保管するようプロンプトを出す」を選択します。

このオプションを使用可能にすると、Access Connections は、ユーザーが接続するそれぞれの新しいイーサネット・ポートの識別情報 (MAC アドレス) を自動的に取得して、そのポートをユーザーが選択するロケーション・プロファイルに

関連付けるようプロンプトを出します。その後、ユーザーが同じイーサネット・ポートに接続すると、Access Connections はユーザーが選択したプロファイルを適用します。

ロケーション・プロファイルに関連付けられたイーサネット・ポートの MAC アドレスを表示または削除するには、「**保管済みポートの編集**」をクリックします。

5. ご使用のコンピューターで無線 WAN 接続がサポートされる場合、「**他に使用可能な接続がない場合は無線 WAN を介して接続する**」を選択して、存在する場合は適切な無線 WAN のロケーション・プロファイルを選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。

接続状況の表示

Access Connections を使用してネットワーク接続の状況をモニターできます。詳しくは、以下のいずれかをクリックしてください。

AC メインウィンドウ

Access Connections を起動すると、デフォルトでメインウィンドウの「**ロケーション・プロファイル**」タブが選択されています。このタブに関連したウィンドウでは、「**ロケーション**」プルダウン・メニューで選択されたロケーション・プロファイルの状況がグラフィックで示されます。詳細については、マウスをグラフィックの上に置いてください。以下に、このウィンドウで通常は左から右に表示されるグラフィックの例を示します。

- コンピューターはネットワークに接続されています



- コンピューターはネットワークから切断されています



- ファイアウォールはオンになっています



- (ブランク) ファイアウォールはオフになっています

- オープン (非セキュア) 有線ネットワーク通信が進行中です



- DSL ネットワーク・デバイスに接続されています



- DSL ネットワーク・デバイスに接続され、VPN が使用可能になっています



- セキュア (暗号化された) 有線ネットワーク通信が進行中です



- オープン (非セキュア) ワイヤレス・ネットワーク通信が進行中です



- イーサネット・ネットワークに接続され、VPN が使用可能になっています



- イーサネット・ネットワークから切断されています



- 無線 WAN ネットワークに接続されています



- 無線 WAN ネットワークに接続され、VPN が使用可能になっています



- 無線 WAN ネットワークから切断されています



- モデムを介してリモート・デバイスまたはネットワークに接続されています



- モデムを使用してリモート・デバイスまたはネットワークに接続され、VPN が使用可能になっています



- モデムから切断されています



タスク・トレイ・アイコン

Access Connections には、2 つのタスク・トレイ・アイコンがあります。1 つは接続状況の概要を示し、もう 1 つは無線 LAN または無線 WAN の詳細状況を示します。

Access Connections の状況のアイコン

- アクティブなロケーション・プロファイルがないか、ロケーション・プロファイルが存在しません。



- 現在のロケーション・プロファイルは切断されています。



- 現在のロケーション・プロファイルは接続されています。



- ピアツーピア・コミュニティーがアクティブになっています。



無線 LAN の状況のアイコン

- 無線の電源はオフになっています。



- 無線の電源はオンになっています。無線接続の信号強度は良好です。



- 無線の電源はオンになっています。無線接続の信号強度は限界状態です。



- 無線の電源はオンになっています。無線接続の信号強度が低くなっています。信号強度を改良するには、ご使用のシステムをワイヤレス・アクセス・ポイントに近づけてください。



無線 WAN の状況のアイコン

- WAN 無線の電源はオフになっています。



- アソシエーションなし



- 信号なし



- 信号レベル 1



- 信号レベル 2



- 信号レベル 3



診断

Access Connections は、ネットワーク接続の状況を検査して、検出された問題を解決するための一連のツールを提供します。メインツールバーの「ツール」をクリックして、プルダウン・メニューから「診断」を選択します。「診断ツール」ウィンドウが表示されます。



図 44. 診断ツール

以下のいずれかのタブをクリックして、接続およびネットワーク設定の状況を検査します。

- 接続状況
- Ping
- 経路トレース
- IP 構成

「イベント ログ」タブは、ネットワーク接続の問題を解決する上で使用するよう提供されており、サポート・センターが原因を調査するために使用できます。

メインの Access Connections パネルから「診断ツール」パネルを表示するには、「プロパティ」をクリックします。また、ネットワークへの接続が失敗した場合に表示されるウィンドウからも、このパネルを表示できます。データを保管するには、「診断ツール」パネルで「保存」を押します。表示される情報はテキスト・ファイルとして保管され、サポート・センターが問題を診断するために使用できます。

ネットワークへの接続の試行が失敗した場合、問題の原因および考えられる解決策が、ネットワークの現在の設定と一緒に表示されます。

第 3 章 構成オプション

Access Connections では、各ユーザーが共通設定およびユーザー設定を構成できます。ユーザー設定は、現在のユーザーのみに適用されます。共通設定は、コンピューターの全ユーザーに適用されます。以下のオプションおよび設定を構成できます。

- ネットワークに関する共通設定
- 通知に関する共通設定
- ユーザー設定
- ツールバー・オプション
- ピアツーピア・オプション

ネットワークに関する共通設定

ネットワークに関する共通設定を構成するには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」を選択します。
2. 「共通設定」を選択します。
3. 「ネットワーク」タブをクリックします。

次のウィンドウが開きます。

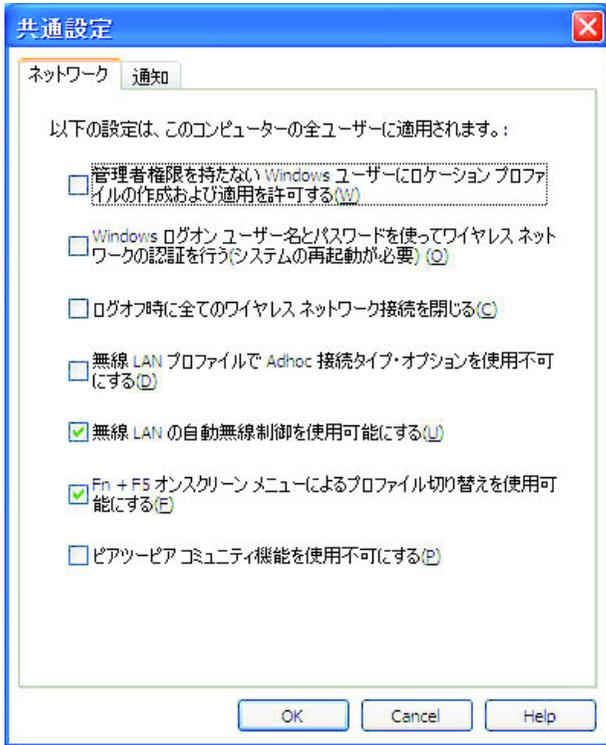


図 45. 「共通設定」 — 「ネットワーク」タブ

4. 必要に応じて変更し、「OK」をクリックします。

ネットワークに関する共通設定は、このコンピューターの全ユーザーに適用されます。次のネットワークに関する共通設定を構成できます。

管理者権限を持たない Windows ユーザーにロケーション・プロファイルの作成および適用を許可する

Windows ログオン権限 (管理者または制限ユーザー) に関係なく、ユーザーにロケーション・プロファイルの作成および適用を許可する場合に、このオプションを選択します。管理者権限を使用してログオンしたユーザーのみが、このオプションを使用可能にできます。このオプションが選択されていても、Windows セキュリティー保護により、デフォルトで、制限ユーザーには TCP/IP 設定、ローカル・ドライブ共有のセキュリティー設定、またはファイアウォール設定の変更または作成が許可されていません。

Windows ログオン ユーザー名とパスワードを使ってワイヤレス ネットワークの認証を行う (システムの再起動が必要)

Windows ログオン時に適用されたユーザー名とパスワードをワイヤレス・ネットワークへの接続のクリデンシャルとして使用する場合、このオプションを選択します。この設定に対する変更を有効にするには、コンピューターを再起動します。

ログオフ時に全てのワイヤレス・ネットワーク接続を閉じる

ユーザーがログオフする際にすべてのワイヤレス・ネットワークから切断する場合、このオプションを選択します。

無線 LAN プロファイルで Adhoc 接続タイプ・オプションを使用不可にする

Adhoc 接続を使用不可にするには、このオプションを選択します。

無線 LAN の自動無線制御を使用可能にする

無線 LAN の電源オン/オフの自動制御を使用可能する場合、このオプションを選択します。

Fn + F5 オンスクリーン メニューによるプロファイル切り替えを使用可能にする

このオプションを選択した場合、Fn + F5 を押すと Fn + F5 オンスクリーン・メニューに現在のロケーション・プロファイルのリストが表示されます。このメニューを使用して、ロケーション・プロファイルを切り替えたり、無線の電源オン/オフを切り替えることができます。

ピアツーピア・コミュニティー機能を使用不可にする

ピアツーピア・コミュニティー機能を使用不可にする場合、このオプションを選択します。

通知に関する共通設定

通知に関する共通設定を構成するには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「共通設定」を選択します。
3. 「通知」タブをクリックします。次のウィンドウが開きます。

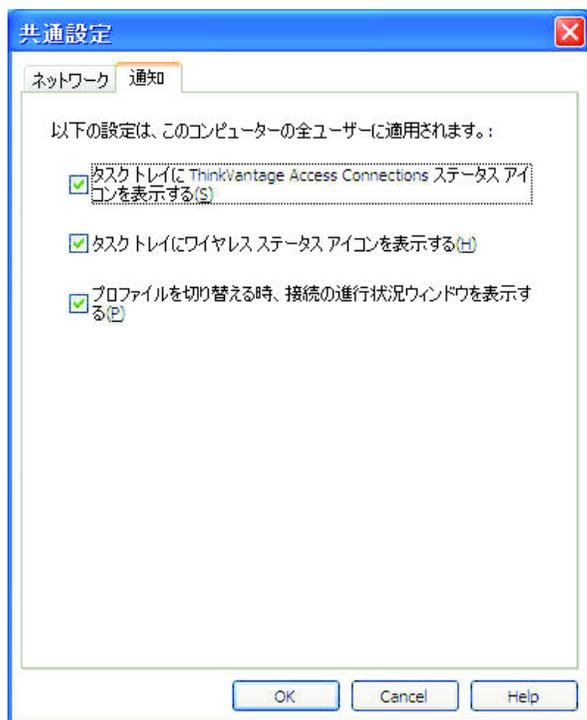


図 46. 「共通設定」 — 「通知」タブ

4. 必要に応じて変更し、「OK」をクリックします。

通知に関する共通設定は、このコンピューター的全ユーザーに適用されます。次の共通設定を構成できます。

タスク トレイに ThinkVantage Access Connections ステータス アイコンを表示する
このオプションを選択すると、Windows タスク・トレイに Access Connections の状況を示すアイコンが表示されます。

タスク トレイにワイヤレス ステータス アイコンを表示する
このオプションを選択すると、Windows タスク・トレイにワイヤレス・ネットワーク接続の状況を示すアイコンが表示されます。

プロファイルを切り替える時、接続の進行状況ウィンドウを表示する
プロファイルが適用されるときに進行状況表示ウィンドウを表示するには、このオプションを選択します。

ユーザー設定

ユーザー設定を構成するには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「ユーザー設定」を選択します。ウィンドウが開きます。

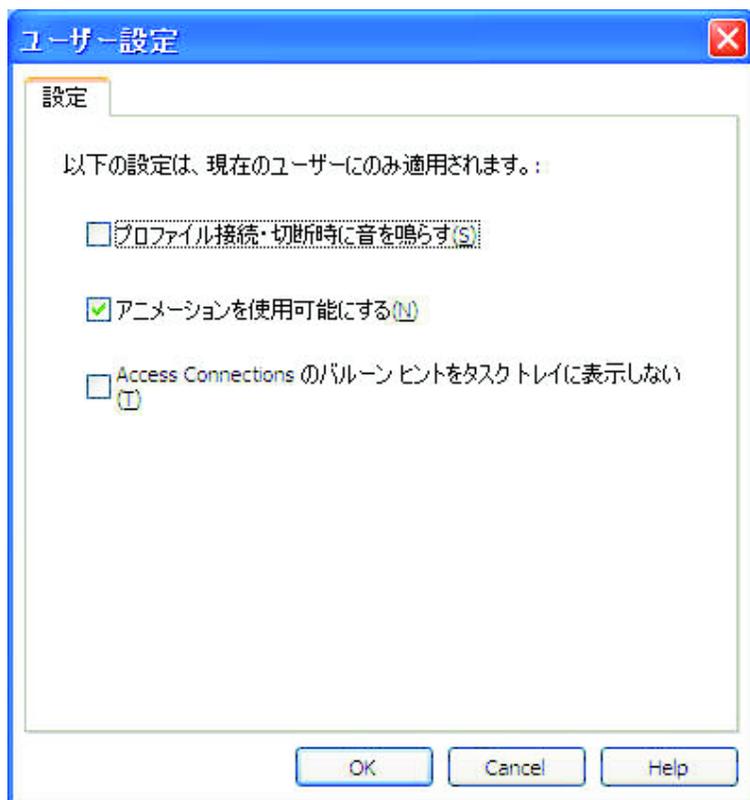


図 47. ユーザー設定

3. 必要に応じて変更し、「OK」をクリックします。

設定は、現在のユーザーのみに適用されます。Access Connections に対して、以下の設定を構成できます。

プロフィール接続・切断時に音を鳴らす

接続状況が変化したときに Access Connections のサウンド効果をオンにするには、このオプションを選択します。

アニメーションを使用可能にする

Access Connections でグラフィックス・アニメーションをオンにするには、このオプションを選択します。

Access Connections のバルーン ヒントをタスク トレイに表示しない

Access Connections のタスク トレイ・アイコンに表示されるバルーン・ヒント情報をオフにするには、このオプションを選択します。

ツールバー・オプション

Access Connections のメイン・アプリケーション・ウィンドウには、デフォルトで、頻繁に使用される機能に素早くアクセスできるツールバーが表示されます。ツールバーのアイコンのサイズを変更したり、組み込む機能を選択することができます。

ツールバーをカスタマイズするには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「ツールバー・オプション」をクリックします。次のウィンドウが開きます。



図 48. ツールバーのカスタマイズ

3. ツールバーに機能のアイコンを追加するには、パネルの左側に表示される使用可能なツールバー・ボタンのリストからその機能を選択して、「追加」をクリックします。ツールバーから機能のアイコンを削除するには、パネルの右側にある現在のツールバー・ボタンのリストからその機能を選択して、「削除」をクリックします。

注: メインウィンドウのツールバーでテキスト・キャプションが付いて表示されるのは、デフォルトの 3 つのボタン（「ワイヤレス ネットワークの検索」、「プロファイルの管理」、および「ヘルプ」）のみです。

4. ツールバーのボタンの順序を変更するには、現在のツールバー・ボタンのリストからボタンを選択し、「上へ」(優先順位が高い左側に移動する場合) または「下へ」(優先順位が低い右側に移動する場合) をクリックします。
5. ツールバー・ボタンのサイズを変更するには、「アイコン・オプション」メニューから「大きいアイコン」または「小さいアイコン」を選択します。
6. 「閉じる」をクリックします。

ツールバーをデフォルト設定にリセットするには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「ツールバー・オプション」をクリックします。
3. 「リセット」をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

ピアツーピア・オプション

ピアツーピア・オプションを構成するには、次のようにします。

1. Access Connections メインウィンドウのメニュー・バーで、「構成」をクリックします。
2. 「ピアツーピア・オプション」を選択します。ウィンドウが開きます。

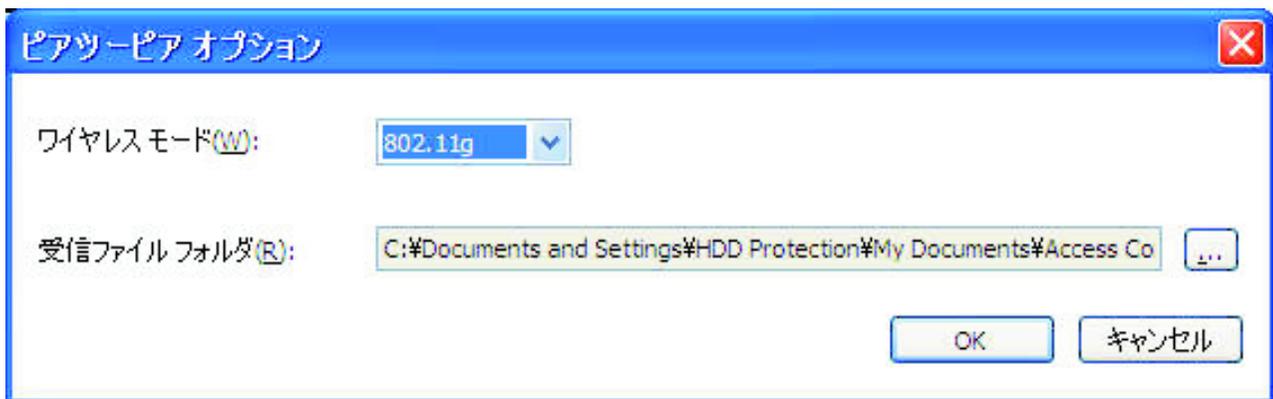


図 49. 「ピアツーピア・オプション」ウィンドウ

3. 必要に応じて変更し、「OK」をクリックします。

ピアツーピア・オプションは、このコンピューターの全ユーザーに適用されます。次のピアツーピア・オプションを構成できます。

ワイヤレス モード

「ワイヤレス モード」として 802.11b、802.11g、または 802.11a を選択します。

受信ファイル・フォルダー

「受信ファイル・フォルダー」のファイル・パスを入力します。このフォルダーには、「ファイル送信」により送信された受信ファイルが保管されます。

第 4 章 無線 WAN 接続の使用

Access Connections v.4.1 は、ネットワーク接続用の無線 WAN Mini PCI Express デバイスをサポートします。

無線 WAN 接続を開始するには、最初にコンピューターの内蔵無線 WAN カードを活動化する必要があります。これは、メインの Access Connections パネルから次のようにして行います。

1. メインツールバーの「ツール」をクリックします。
2. プルダウン・メニューから「無線 (WAN)」を選択します。
3. 「WAN カードの活動化」をクリックします。Sierra Wireless Activation Wizard が開きます。



図 50. 活動化プロセス・ウィザード

無線 WAN プロファイルの作成および適用

Access Connections プロファイル・ウィザードを使用して、無線 WAN 用のプロファイルを作成できます。初めてネットワークへの接続用の WAN デバイスを選択すると、Access Connections は、デバイスが構成されていないことを検出し、自動的に Sierra Wireless Activation Wizard を起動します。

このウィザードには、ユーザーが Verizon カスタム・ダイアラーを起動できるオプションがあります。Verizon カスタム・ダイアラーが起動すると、すべての接続および状況のコントロールがカスタム・ダイアラーにより表示されます。この場合、Access Connections メインウィンドウには最小限の情報 (IP アドレス、送受信バイト・カウント) が表示されます。

注: 無線 WAN クライアント・マネージャー (VzAccess Manager または Vodafone Mobile Connect など) が実行中の場合、Fn + F5 オンスクリーン・ウィンドウには、無線 WAN アダプターの無線状況および無線を制御するためのボタンは表示されません。

ユーザーが WAN ロケーション・プロファイルを作成して適用すると、Access Connections はワイヤレス WAN 無線の活動化プロセスを開始し、接続を開き (ロケーションで選択可能なサービスに応じて EvDO モード、CDMA1x モード、または CDMA モードで)、IP アドレスが割り当てられるのを待機します。接続が確立されるとすぐに、プロファイルの詳細状況が Access Connections メインウィンドウまたはタスク・トレイ (関連アイコンをクリックした場合) に表示されます。詳細情報には、WAN 接続に固有の次のデータが含まれます。

無線の信号状態

信号の強度がグラフィックで示されます。

送受信バイト・カウント

接続中に送受信されたバイト・カウントが、リアルタイムでメインウィンドウに表示されます。接続時間も、メインウィンドウおよびタスク・トレイの WAN 状況情報ウィンドウの両方にリアルタイムで表示されます。

ログ・データへのリンク

接続履歴です。これには、ユーザーが接続を確立した日付と時間、および以前の接続ごとに送受信されたバイト数が含まれます。

Verizon Wireless Web サイトへのリンク

更新に関する情報を得るための Web リンクです。

ご使用のコンピューターに内蔵無線 WAN カードがない場合、サポートされる無線 WAN PCMCIA カードを取り付けることができます。非内蔵型のカードを使用する場合、WAN 接続は、サービス・プロバイダーにより提供される無線 WAN クライアント・ユーティリティにより管理されます。活動化の説明書は、PCMCIA カードに付属しています。

Short Message Service (SMS) インターフェースの使用

Sierra Wireless Short Message Service (SMS) は、テキスト・ファイルを送信するためのユーティリティです。メッセージを送信するには、SMS のユーザー・インターフェース・ウィンドウで次のようにします。

1. メインメニュー・バーで「ツール」をクリックします。
2. 「無線 (WAN)」を選択します。

注: Access Connections の「無線 WAN」メニューを使用できるのは、内蔵無線 WAN カードを使用している場合のみです。

3. 「テキスト・メッセージングの開始」を選択します。SMS メッセージ・ウィンドウが開きます。
4. 「新規」をクリックします。
5. 受信者の電話番号およびメッセージを入力します。
6. 「送信」をクリックします。

受信メッセージを表示するには、次のようにします。

1. メインメニュー・バーで「ツール」をクリックします。
2. 「無線 (WAN)」を選択します。
3. 「テキスト・メッセージングの開始」を選択します。SMS メッセージ・ウィンドウが開きます。
4. 「受信箱」タブを選択します。受信メッセージのリストが表示されます。

無線 WAN サービス・プロバイダーにアクセスして、登録および活動化のタスクを実行したり、請求情報を表示したり、お客様サポートを利用することができます。次のようにします。

1. メインメニュー・バーで「ツール」をクリックします。
2. 「無線 (WAN)」を選択します。
3. 「サービス・プロバイダーへのリンク」を選択します。

第 5 章 ピアツーピア接続の概要

Access Connections v.4.1 は、新しいタスク指向の接続方法を提供します。この方法は、ロケーション・プロファイルの使用に基づいていません。これは、ユーザー間またはピア間における高速ピアツーピア接続で、セキュア・ファイル転送機能を備えた無線 LAN デバイスを使用して一時的なワークグループを作成して行います。

ピアツーピア接続の準備

インターネット・ファイアウォールを使用可能にしている場合、管理者権限を持つユーザーが例外規則を作成しないと、ピアツーピア接続を確立できません。この権限を持っていない場合、コンピューター管理者に代わりにファイアウォール設定を変更するよう依頼してください。

Windows ファイアウォール (Windows XP SP2 を実行しているコンピューター)

1. 「コントロール パネル」で「セキュリティ センター」を開きます。



図 51. Windows セキュリティー

2. 「Windows ファイアウォール」をクリックします。「Windows ファイアウォール」ウィンドウが開きます。

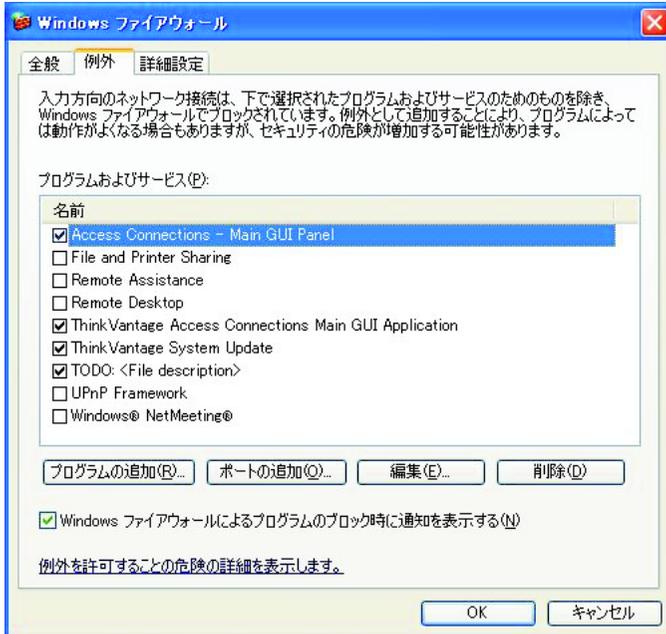


図 52. 「Windows ファイアウォール」ウィンドウ

3. 「例外」タブを選択し、「プログラムの追加」ボタンをクリックします。
4. リストから「Access Connections」を選択して、「OK」をクリックします。



図 53. 「プログラムの追加」ウィンドウ

5. 「例外」タブが開きます。ここで、再度「プログラムの追加」ボタンを押します。
6. 「参照」ボタンをクリックして、C:\Program Files\NetMeeting\conf.exe を選択し、「開く」をクリックします。
7. 「プログラムの追加」ウィンドウで「OK」をクリックします。
「Windows ファイアウォール」ダイアログ・ボックスで再度「OK」をクリックします。
8. 「セキュリティ センター」を閉じます。

その他のファイアウォール

Windows ファイアウォール以外のファイアウォールを使用する場合、例外を対象とする規則の作成についてプログラム・マニュアルを参照してください。ご使用のファイアウォールがプログラム制御をサポートしない場合、表 1 にリストされているポートを開きます。

表 1. ピアツーピア接続の準備

アプリケーション	プロトコル	ポート (Port)	デフォルトのパス
NetMeeting	TCP/UDP	522	C:\Program Files\NetMeeting\conf.exe
	TCP/UDP	1503	
	TCP/UDP	1720	
	TCP/UDP	1731	
Access Connections	UDP	5353	C:\Program Files\ThinkPad\ConnectUtilities\ACMainGUI.exe
	UDP	49443	
IPSec (lsass.exe)	TCP/UDP	500	C:\Windows\system32\lsass.exe

ピアツーピア接続の作成

ピアツーピア接続を作成するには、次のステップを実行します。

注: ピアツーピア接続はファイアウォールによりブロックされることがあります。一時的に、ファイアウォール・プログラムを使用不可にするか、NetMeeting および Access Connections を例外規則に追加します。ピアツーピア接続用にコンピュータを構成する方法については、71 ページの『ピアツーピア接続の準備』を参照してください。

1. メイン AC ウィンドウを開きます。デフォルトで「ロケーション・プロファイル」タブが表示されます。



図 54. メイン AC ウィンドウ — 「ロケーション・プロファイル」タブ

2. 「ピアツーピア・コミュニティ」タブをクリックします。

ピアツーピア・コミュニティが開始して、初期ピアツーピア・ウィンドウが表示されます。



図 55. 「ピアツーピア・コミュニティ」タブ — 「参加」ボタン

3. 確立しているコミュニティに固有のパスワードを入力します。ユニコード・コードで、引用符、スペース、および下線を含めて少なくとも 8 文字を入力する必要があります。コミュニティに参加する各ユーザーが、このパスワードを入力する必要があります。開始時に「パスワード」編集ボックスには、現在のユーザーが前回使用したパスワードが入力されています。

左側に、ぼかし表示されたノートブック・アイコン、ユーザー名、および選択したワイヤレス・モードが表示されます。ワイヤレス・モードを変更するには、「構成」メニューに進みます。中央のリスト・ボックスには、ピアツーピア機能の使用に関する簡単な説明が表示されます。下部にある 3 つのアプリケーション・ボタン、および右側の「受信ファイル」ボタンは、ユーザーがグループに接続されるまで使用不可になっています。

4. 「参加」ボタンをクリックします。
5. ピアツーピア・コミュニティが、ワイヤレス・ネットワークのセットアップを開始します。以下の設定が自動的に構成されます。
 - 無線 LAN アダプターは、自動的に Adhoc モード (802.11 IBSS) に設定されます。
 - 一時的な IP アドレスが割り当てられます。
 - 分散 DNS サービスが開始されます。
 - NetMeeting COM インターフェースが初期設定されます。

このプロセスには、多少の時間がかかります。このプロセス中に、進行状況表示が表示されます。Adhoc セットアップの適用を停止するには、進行状況表示の隣りにある「停止」ボタンを押します。ピアツーピア・コミュニティが、前回のワイヤレス・アダプター構成を復元します。

注: 「閉じる」ボタンは、進行状況表示ダイアログ・ボックスのみを閉じます。初めてピアツーピア・コミュニティおよび NetMeeting を使用する場合、NetMeeting 初期設定ダイアログが表示されます。



NetMeeting

Enter information about yourself for use with NetMeeting.
Note: You must supply your first name, last name, and E-mail address.

First name:

Last name:

E-mail address:

Location:

Comments:

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 56. 「NetMeeting」 ウィンドウ

少なくとも、ユーザーのファーストネーム、ラストネーム、および E メール・アドレスを入力して、「次へ」をクリックします。

6. NetMeeting が開始すると、進行状況表示ダイアログ・ボックスが閉じて、左側のノートブック・アイコンの色が変わります。アプリケーション・ボタンは、別のメンバーが近隣で検出されるまで使用不可のままです。



図 57. 「ピアツーピア・コミュニティ」タブ — 「退席」ボタン

7. グループのメンバーが検出されると、それぞれのノートブック・アイコンがユーザー名とともに表示されます。そのメンバーとの NetMeeting 接続が確立されるまで、このアイコンはぼかし表示されています。初回接続が確立されると、アプリケーション・ボタンが使用可能になります。

Windows 2000 を使用するメンバーの場合、接続の確立にはさらに時間がかかる場合があります。

ピアツーピア接続の使用

ピアツーピア接続が確立されると、次のことを実行できます。

ファイル送信

他のメンバーにファイルを送信するには、「**ファイル送信**」ボタンをクリックして、NetMeeting のファイル転送アプレットを開始します。デフォルトで、ユーザーが受信するファイルは、ユーザーの文書フォルダーにある次のフォルダーに保管されます。

Access Connections\Received Files

フォルダーを変更するには、「**構成**」メニューに進みます。

メンバーとのチャット

「**チャット**」ボタンをクリックします。NetMeeting のチャット・アプレットが開始します。ユーザーは、グループの 1 人以上または全員にメッセージを送信できます。

ホワイトボードの使用

「**ホワイトボード**」ボタンをクリックします。NetMeeting のホワイトボード・アプレットが開始します。ホワイトボードは、全メンバーにより共有されます。

これらのアプレットの使用について詳しくは、NetMeeting ヘルプを参照してください。開くには、各アプレットのメニュー・バーにある「**ヘルプ**」をクリックします。

構成オプションの変更

次のオプションを変更するには、「**構成**」メニューに進みます。

注: グループに参加した後は、設定を変更することができません。

ワイヤレス・モード (802.11 a/b/g)

複数のネットワーク・タイプ (a、b、および g など) をサポートする無線 LAN アダプターの場合、Adhoc ネットワーキングで使用されるモードを切り替えることができます。ワイヤレス・アダプターがデフォルト・モードを指定します。

受信ファイル・フォルダー・パス

この設定を変更するには、書き込みアクセス権限が必要です。

セキュア・モード接続用に IP セキュリティーを使用可能にするには...

セキュア・モード接続を開始するには、接続中に IP セキュリティーを使用可能にします。最初にご使用のコンピューターを構成してから、IP セキュリティーを使用可能にします。手順は次のとおりです。

- ご使用のコンピューターが SP2 プリロード済みの Windows XP を実行している場合、Windows Support Tools (C:\¥Support¥Tools) をインストールします。C:\¥Support¥Tools ディレクトリーを開いて、SETUP.EXE をダブルクリックします。セットアップ・ウィザードに示される説明に従ってください。インストール・タイプの選択を求められたら、「**Complete**」を選択します。
- ご使用のコンピューターが SP2 にアップグレード済みの Windows XP を実行している場合、Microsoft ダウンロード・センター (<http://www.microsoft.com/downloads>) にアクセスして、「Windows XP

Service Pack 2 Support Tools」を検索します。プログラムを一時ディレクトリーにダウンロードして、実行します。セットアップ・ウィザードに示される説明に従ってください。インストール・タイプの選択を求められたら、「Complete」を選択します。

- ご使用のマシンが Windows XP を実行していて、SP2 がインストールされていない場合、SP2 プリロード済みの Windows XP を実行しているコンピューターのインストール手順に従ってください。
- ご自分で OS をインストールされた場合、Windows XP のインストール CD を挿入します。セットアップ・プログラムが自動的に開始したら、終了して、Windows エクスプローラを使用して ¥Support¥Tools ディレクトリーを開きます。次に、SETUP.EXE をダブルクリックし、セットアップ・ウィザードに示される説明に従ってください。インストール・タイプの選択を求められたら、「**Complete**」を選択します。
- ご使用のコンピューターが Windows 2000 を実行している場合、Windows 2000 リソース・キットのダウンロード・ページ (<http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/reskit/tools>) にアクセスして、「Ipsecpol.exe: Internet Protocol Security Policies Tool」を一時ディレクトリーにダウンロードします。その後、そのプログラムを実行して IPsecPol.exe をセットアップします。

付録 A. よくある質問

1. 在席中は有線接続を、会議室では無線 LAN 接続を、自宅では無線 LAN 接続を使用している場合、どのような方法で自動的にネットワークに接続できますか？

ネットワーク接続タイプの「有効な有線又は無線 LAN を自動選択」を使用して、有線 LAN および無線 LAN の両方でオフィス用のロケーション・プロファイルを作成します。次に、無線 LAN ネットワーク接続を使用して自宅用のロケーション・プロファイルを作成します。ロケーション・プロファイルの自動切り替えを構成して、オフィス用のロケーション・プロファイルおよび自宅用のプロファイルを選択します。これで、ロケーション・プロファイルは自動的に切り替わります。

2. 管理者権限を持っていないユーザーはロケーション・プロファイルを切り替えることができますか？

ネットワークに関する共通設定で「管理者権限を持たない Windows ユーザーにロケーション・プロファイルの作成および適用を許可する」オプションが選択されている場合は、管理者でないユーザーがロケーション・プロファイルを切り替えることができます。

3. 管理者権限を持っていないユーザーはロケーション・プロファイルを編集できますか？

管理者でないユーザーは、ダイヤルアップ・ロケーション・プロファイルのみを編集できます。ネットワークに関する共通設定で「管理者権限を持たない Windows ユーザーにロケーション・プロファイルの作成および適用を許可する」オプションが選択されている場合は、このようなユーザーがプロファイルを作成できます。

4. 現在のネットワーク設定を取り込んで、ロケーション・プロファイルで使用できますか？

ロケーション・プロファイルを作成すると、デフォルトで現在のネットワーク設定が使用されます。現在の設定を使用したい場合は、設定を変更せずに使用してください。

5. 特定のロケーション・プロファイルで接続するたびに、自動的にソフトウェア・アプリケーションを開始することはできますか？

ロケーション・プロファイルの「追加設定」で、ネットワーク接続を切り替える前または後にソフトウェアが開始されるように指定することができます。

6. いくつのロケーション・プロファイルを作成できますか？

必要なだけ作成することができます。上限はありません。

7. 最新の Access Connections を使用するには、どの無線 LAN デバイス・ドライバーをコンピューターにインストールする必要がありますか？

必ず、正しい無線 LAN デバイス・ドライバーを選択してください。Access Connections では無線 LAN デバイス・ドライバーが提供する新しい機能 (802.1x 認証タイプなど) が使用されます。Access Connections を簡単かつ安全

にインストールするために、Access Connections + 無線 LAN ドライバー・パッケージをダウンロードできます。このパッケージをインストールすると、無線 LAN 接続および必要なすべてのデバイス・ドライバー自動的に検出されて、インストールされます。

8. Access Connections にサイレント・インストール機能はありますか？

Access Connections の "setup.exe" インストール・コマンドに "-s" を付けると、サイレントまたは不在インストールが開始します。プロファイル配布ファイル (*.loa) が同じフォルダー内にある場合は、自動的にインポートされます。

9. Access Connections の管理者は、どのような種類の機能を使用できますか？

独自のロケーション・プロファイルを他のコンピューターに配布するためのパッケージを作成できます。また、パッケージに設定を組み込むと、同じネットワーク環境で多くのコンピューターを使用する場合に便利です。管理者になるには、<http://www.ibm.com/jp/pc/think/thinkvantagetech/accessconnections.shtml> にアクセスして、必要なファイルを Lenovo ノートブック製品にダウンロードおよびインストールします。

10. 異なるユーザー ID で Windows にログオンした場合、Access Connections の操作に違いはありますか？

次の表に違いをリストします。

表 2. 異なるユーザー ID を使用した場合の Access Connections の操作の違い

実行できる内容	管理者	パワー・ユーザー	非管理ユーザー
Access Connections の管理者になることができる	はい	いいえ	いいえ
構成を変更できる ¹	はい	はい	はい (一部)
ロケーション・プロファイルの作成、変更、または削除を行うことができる ²	はい	はい	はい ³
ロケーション・プロファイルの自動切り替えの構成を変更できる	はい	はい	いいえ
診断ツールを使用して IP アドレスの更新または解放を行うことができる	はい	はい	いいえ
ロケーション・プロファイルをエクスポートできる	はい	はい	いいえ
ワイヤレス・ネットワークを検索して接続できる	はい	はい	はい ³

表 2. 異なるユーザー ID を使用した場合の Access Connections の操作の違い (続き)

実行できる内容	管理者	パワー・ユーザー	非管理ユーザー
ロケーション・プロファイルを切り替えることができる	はい	はい	はい ³

¹: 配布パッケージからインポートされ、制限がある設定は変更できません。

²: 配布パッケージからインポートされ、制限がある設定は変更できません。ただし、すべてのユーザーが、ダイヤルアップ・ロケーション・プロファイルの作成、変更、または削除を行うことができます。

³: ネットワークに関する共通設定でオプション「管理者権限を持たない Windows ユーザーにロケーション・プロファイルの作成および適用を許可する」を選択する必要があります。

11. **Windows 2000** でロケーション・プロファイルを切り替えることができません。

Windows で自動的にネットワーク接続が構成される場合、次のようにして構成を使用不可にします。

- a. 「コントロール パネル」を開いて「管理ツール」をダブルクリックします。「サービス」をダブルクリックしてから、「**Wireless Configuration**」をダブルクリックします。
- b. 「スタートアップの種類」として「無効」を選択します。

12. すべての **Lenovo** ノートブック製品で **Fn + F5** キーの組み合わせを使用して、無線機能を使用可能または使用不可にすることはできますか？

無線機能を使用可能または使用不可にするキーの組み合わせを使用できるのは、Lenovo ノートブック製品のホット・キー機能のバージョン 1.03.0391 以降がご使用のコンピューターにインストールされている場合のみです。インストール済みの場合、F5 にワイヤレス・アイコンが印刷されています。

13. イーサネット接続を使用しているとき、なぜコメントの入力を求めるプロンプトが出されるのですか？

コメントの入力を求めるプロンプトが出されるのは、Access Connections が自動ネットワーク接続の新しいネットワーク・デバイスを検出したためです。Access Connections は、このネットワークが現在のロケーション・プロファイルに最適であると認識します。次回このネットワークに接続すると、このロケーション・プロファイルが自動的に選択されます。

14. 固定 IP アドレスを構成できません。

ネットワーク接続タイプとして「有効な有線又は無線 LAN を自動選択」を選択すると、固定 IP アドレスを構成できません。有線 LAN または無線 LAN のみを選択してください。

15. なぜ、ロケーションの自動切り替えリストにイーサネット・ロケーション・プロファイルが表示されないのですか？

固定 IP アドレスを使用するイーサネット・ロケーション・プロファイルは、自動切り替えリストから除外されます。

16. 無線 LAN 接続を使用していると、ドメインにログオンできません。

無線接続では電波が使用されるため、無線 LAN ネットワーク接続は有線 LAN ネットワーク接続より無許可アクセスに対して弱い弱です。無線 LAN ネットワークへの接続を試行する場合、認証処理が必要です。認証処理が完了するまで、ネットワークへのアクセスを取得できません。Windows にログオンした後、ネットワークへのアクセスを取得するのに長い時間がかかる場合、ドメインにログオンできない可能性があります。その代わりに、コンピューターは、コンピューターのキャッシュに保管されている、最近要求されたネットワークのコピーへのアクセスを取得しようと試行します。コンピューターがローカルにコピーへのアクセスを取得した場合、ログオン・スクリプトまたはログオン・ポリシーの対象となる一部の機能を使用できません。確実にドメインにログオンできるように、Access Connections は、Windows へのログオン処理が完了する前に、即時に認証を開始します。IEEE 802.1x 認証 (たとえば、EAP-LEAP、EAP-PEAP、または EAP-TTLS) を使用する場合、Access Connections は、最初に認証処理が完了するようにログオンの順序を変更します。固定 WEP キーまたは Wi-Fi プロテクト・アクセス — プリ・シェアード・キー (WPA-PSK) を使用する場合、ワイヤレス・セキュリティ設定セクションの説明を参照してください。

17. ピアツーピア・モードを使用しているときにチャンネルを選択できません。

Access Connections はユーザーの SSID (ネットワーク名) に適したチャンネルを検索するため、ピアツーピア・モードではチャンネルを選択する必要がありません。無線の規格 (たとえば、IEEE 802.11a/b/g) については、Access Connection はワイヤレス・アダプターのデフォルト設定を適用します。これを手動で経高するには、Access Connections メインウィンドウで「構成」メニューをクリックして、「ピアツーピア・オプション」を選択します。ワイヤレス・モードが違うために他のメンバーと接続できない場合は、グループを退席して、すべてのメンバーが使用できるワイヤレス・モードを選択してください。

付録 B. コマンド行インターフェース

Access Connections では、ロケーション・プロファイルを切り替えたり、ロケーション・プロファイルのインポートまたはエクスポートを行うためにコマンド行からコマンドを入力できます。以下のコマンドをコマンド・プロンプト・ウィンドウから入力することも、他のユーザーが使用できるようにバッチ・ファイルを作成することもできます。これらのコマンドを実行する前に、Access Connections が実行されている必要はありません。

ロケーション・プロファイルを適用します。

```
<path>%qctray.exe /set <location profile name>
```

ロケーション・プロファイルを切断します。

```
<path> %qctray.exe /reset <location profile name>
```

ロケーション・プロファイルを削除します。

```
<path> %qctray.exe /del <location profile name>
```

ロケーション・プロファイルをインポートします (.loc 拡張子のファイルのみ有効)。

```
<path> %qctray.exe /imp <location profile path>
```

GUI を使用してロケーション・プロファイルをインポートします (.loc 拡張子のファイルのみ有効)。

```
<path> %qctray.exe /GUIImp <location profile path>
```

全プロファイルのサイレント・インポートを実行します。

```
<path> %qctray.exe /importsilently
```

署名ファイルをインポートします。

```
<path> %qctray.exe /importsignaturefile
```

ロケーション・プロファイルをエクスポートします (.loc 拡張子のファイルのみ有効)

```
<path> %qctray.exe /exp <location profile path>
```

全ロケーション・プロファイルをマイグレーションします。

```
<path> %qctray.exe /migratelocations
```

ワイヤレス・カードのダミー SSID プロファイルを適用して (どのプロファイルが最近アクティブであったかに関係なく)、即時に戻ります。無線の電源を切らないでください。

```
<path> %qctray.exe /disconnectwl
```

AcMainGUI、AcTray、AcWIIcon モジュールを閉じます。

```
<path> %qctray.exe /exit
```

すべてのローミングがイーサネットおよびワイヤレスでブロックされる特殊モニター・モードを入力します。また、この API を呼び出したサード・パーティー・アプリケーションが閉じるときに、モニター・モードをリセットします。

```
<path> %qctray.exe /setmonitormode
```

モニター・モードをリセットします。

```
<path> %qctray.exe /resetmonitormode
```

すべての Access Connections プロセスを強制終了します。この処理には、管理者権限が必要であるため、コマンドは AcPrfMgrSvc を介して実行され、プロファイル・マネージャー・サービスを除く他の Access Connections プロセスをすべて閉じます。

```
<path> %qctray.exe /killac
```

すべての Access Connections プロセスを再開します。この処理には、管理者権限が必要であるため、コマンドは AcPrfMgrSvc を介して実行されます。

```
<path> %qctray.exe /startac
```

ワイヤレス・ネットワークを検索します。

```
<path> %qctray.exe /findwlnw
```

QCTRAY ヘルプ情報を表示します。

```
<path> %qctray.exe /help
```

付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手

ヘルプ、サービス、技術支援、または Lenovo 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、Lenovo がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。この付録では、Lenovo と Lenovo 製品に関する追加情報の入手先、問題が発生した場合の対処方法、およびサービスが必要になった場合の連絡先について記載しています。

依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックして、コンピューターの電源がオンになっていることを確認します。
- コンピューター資料のトラブルシューティングに関する推奨事項を適用します。
- ご使用のコンピューターに付属の診断ツールを使用してください。診断ツールに関する情報は、ご使用のコンピューターの「保守マニュアル」および「使用上の注意と問題判別」に記載されています。
- サポート Web サイト (<http://www.ibm.com/jp/pc/thinkpad/>) で、テクニカル情報、ヒント、および新規デバイス・ドライバーを調べるか、情報を要求します。
- ご使用のコンピューターに無線スイッチが装備されている場合、そのスイッチがオンになっていることを確認してください。

多くの問題は、ご使用のコンピューターやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプまたは説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。コンピューターに付属の説明資料にも、お客様が実行できる診断テストについての説明があります。大部分の PC システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順やエラー・メッセージおよびエラー・コードに関する説明書が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

Lenovo システムおよびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。Lenovo は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けています。これらのページにアクセスするには、<http://www.ibm.com/jp/pc/thinkpad/> に進み、説明に従ってください。

ヘルプおよび情報を WWW から入手する

Lenovo Web サイト (<http://www.ibm.com/jp/pc/thinkpad/>) には、Lenovo 製品、サービス、およびサポートについての最新情報が提供されています。

付録 D. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、Lenovo 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

*Intellectual Property Licensing
Lenovo Group Ltd.
3039 Cornwallis Road
Research Triangle Park, NC 27709
U.S.A.
Attention: Dennis McBride*

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されるすべての情報は、特定の環境において得られたものであり、例として提示されます。他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

付録 E. 商標

以下は、Lenovo Corporation の商標です。

Lenovo
ThinkPad
ThinkVantage

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM (ライセンスに基づき使用しています。)

Approach
Lotus
Lotus Notes
Lotus Organizer
Freelance Graphics
SmartSuite
Word Pro
1-2-3

Microsoft、Windows、および Outlook は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、LANDesk、および Intel SpeedStep は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アイコン
 - システム・トレイ 47
 - 接続状況 51
 - タスク トレイ 63
 - ツールバー 64
 - 無線 LAN の状況 56, 62
 - 無線 WAN の状況 56
 - ロケーション・プロファイル状況 51
 - ワイヤレス接続タイプ 48
 - Access Connections の状況 55, 62
- オンスクリーン・メニュー
 - Fn + F5 46, 47, 61

[カ行]

- 拡張ワイヤレス設定 19
 - 省電力 20
 - 省電力モード 20
 - 送信電力レベル 20
 - 電力レベル 20
 - プリアンブル 20
 - 優先アクセス ポイント MAC アドレス 20
 - 優先順位 20
 - 802.11b プリアンブル 20
 - MAC アドレス 20
 - QoS を使用可能にする 20
- 更新の確認 2
- 構文
 - 規則 viii
- 固定 WEP キーを使用 30
- コマンド・プロンプト 46

[サ行]

- システム要件
 - オペレーティング・システム 1
- システム・トレイ・アイコン 47
- 受信ファイル・フォルダー 65
- 診断 57
- 診断ツール 57
 - 経路トレース 57
 - 接続状況 57

診断ツール (続き)

- IP 構成 57
- Ping 57

[タ行]

- ダイヤルアップ (モデムまたは携帯電話) 13
- ダイヤルアップ接続 13
 - ダイヤラー・プログラム 22
- ツールバー
 - アイコンの削除 64
 - アイコンの追加 64
 - カスタマイズ 64
 - デフォルト設定 64
- ツールバー・オプション 64
- 追加設定 26, 27
 - ネットワーク・セキュリティー設定 27
- 通知に関する共通設定 62
- デフォルト・プリンター 28

[ナ行]

- ネットワーク接続
 - タイプ 8
 - ダイヤルアップ (モデムまたは携帯電話) 13
 - 無線 LAN (802.11) 11
 - 無線 WAN 14
 - 有効な有線又は無線 LAN を自動選択 9
 - 有線 LAN (イーサネット) 10
 - 有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム) 12
- ネットワークに関する共通設定 59
- ネットワーク・セキュリティー設定
 - 共用
 - インターネット接続 27
 - ファイル 27
 - プリンター 27
 - ファイアウォール 27

[ハ行]

- パスフレーズ 75
- バルーン・ヒント 63
- ピア
 - 定義 71
- ピアツーピア 71
- ピアツーピア接続 71
 - オプション 78
 - 作成 74
 - 使用 78

- ピアツーピア接続 (続き)
 - チャンネルの選択 84
 - IP セキュリティー 78
- ピアツーピア・オプション 65
- ファイアウォール 71
- プリ・シェアード・キー 17
- プロファイル名 6
- プロファイル・ウィザード 5

[マ行]

- マシン認証 33
- 無線 LAN (802.11) 11
 - 接続タイプ 16
 - インフラストラクチャー 16
 - Adhoc 17
 - ワイヤレス セキュリティーの種類
 - 固定 WEP キーを使用 17
 - 選択 17
 - なし (暗号化なし) 17
 - 802.1x - EAP Cisco (EAP-FAST) を使用 18
 - 802.1x - EAP Cisco (LEAP) を使用 18
 - IEEE 802.1x 認証を使用 17
 - Windows を使用してワイヤレス ネットワークを構成 18
 - Wi-Fi プロテクト アクセス - プリ シェアード キー (WPA-PSK) を使用 17
 - ワイヤレス・モード 17
- 無線 WAN 14, 25
 - 無線 WAN クライアント・ユーティリティーの使用 25
 - Access Connections の使用 25
- 無線 WAN カード
 - カスタム・ダイヤラー 68
 - 活動化 67
 - 接続履歴 68
 - 非内蔵型 68
 - ログ 68
 - Fn + F5 68

[ヤ行]

- ユーザー設定 63
- 有効な有線又は無線 LAN を自動選択 9
- 有線 LAN (イーサネット) 10
- 有線広帯域接続 (DSL、ケーブルモデム) 12
- 有線ネットワークの IEEE 802.1x 認証 15

[ラ行]

- 例外規則 71
- ロケーション プロファイルの自動切り替え 50

- ロケーション・プロファイル
 - 管理 45
 - 切り替え 50
 - 作成 3
 - ショートカット・アイコン 46
 - 定義 3
 - 適用 47
 - 名前 6
 - ネットワーク接続タイプ 8
 - 非表示 46
 - ロケーション・アイコン 7

[ワ行]

- ワイヤレス・セキュリティ 17

[数字]

- 802.1x - EAP Cisco (LEAP) を使用 41

A

- Access Connections
 - オプション 59
 - ツールバー・オプション 64
 - ピアツーピア・オプション 65
 - 概要 1
 - 改良 1
 - 共通設定 59
 - 通知 62
 - ネットワーク 59
 - 更新 2
 - システム要件 1
 - 設定 59
 - 構成 63
 - 著作権文 4
- Adhoc 接続 17, 61

D

- DSL 12, 20
 - 電話帳 21
- DSL 設定を構成する 12

E

- EAP over LAN 14
- EAPoL 15
- EAP-TLS 35
- EAP-TTLS 36

F

Fn + F5 47, 61

I

IEEE 802.1x 認証 14

IEEE 802.1x 認証を使用 34

 アクセス ポイントの認証 34

 クライアント証明書の使用 35

 サーバー証明書の検証 34

 データ暗号化 34

 EAP タイプ 35

IP アドレス

 構成 83

 固定 83

IP セキュリティー 78

M

MAC アドレス 51

N

NetMeeting 75

P

PEAP-MSCHAP-V2 37

Protected Access Credential (PAC) 42

S

Short Message Service (SMS) 69

SSID 16, 20, 33

V

VPN 接続

 使用可能化 27, 29

 設定 43

 VPN プログラム 43

W

WAN カードの活動化 67

WEP キー長 30

Windows を使用してワイヤレス ネットワークを構成
32

Wi-Fi プロテクト アクセス — プリ シェアード キー
(WPA-PSK) を使用 31

WPA-PSK 31

WPA-PSK (続き)

 データ暗号化モード 31

 プリ シェアード キー 31

[特殊文字]

(PAC)、Protected Access Credential 42

(SMS)、Short Message Service 69

